

スウィートネス  
**SWEETNESS**  
Orange Typhoon サンジ × ナミ再録集

**R-18**  
FOR  
ADULT  
ONLY

FOR  
ADULT  
ONLY

# YOUNG AND PRETTY LOVER

Orange Typhoon Books #16 One Piece SANJI x NAMI by YAMADA Enako



R-18  
for  
adult  
only!



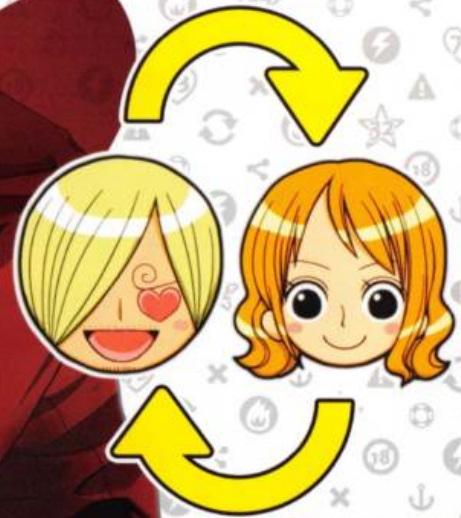
ぐるわら  
船長さまの  
言うとおり

Orange Typhoon Books #17  
One Piece SANJI x Nami  
by YAMADA Enako

ぐるわら  
船長さまの  
言うとおり

# CHANGE OVER

**CAUTION**



**チェンジオーバー**  
"CHANGE-OVER" ONE PIECE SANJI X NAMI FANBOOK #9

ONE PIECE  
SANJI X NAMI  
UNOFFICIAL FANBOOK #9  
PRESENTED BY ORANGE TYPHOON

**R18**  
Adult  
Only

君の唇からただそれを

ONEPIECE SANJI x NAMI  
UNOFFICIAL FANBOOK #7  
presented by Orange Typhoon



# Sweetness

Orange Typhoon サンジ×ナミ再録集 3

P05 - チェンジオーバー  
[2012.8.11]

P36 - アンソロゲスト参加漫画  
[2014.5.4]

P47 - ぐるわら船長さまの言うとおりに  
[2013.12.29]

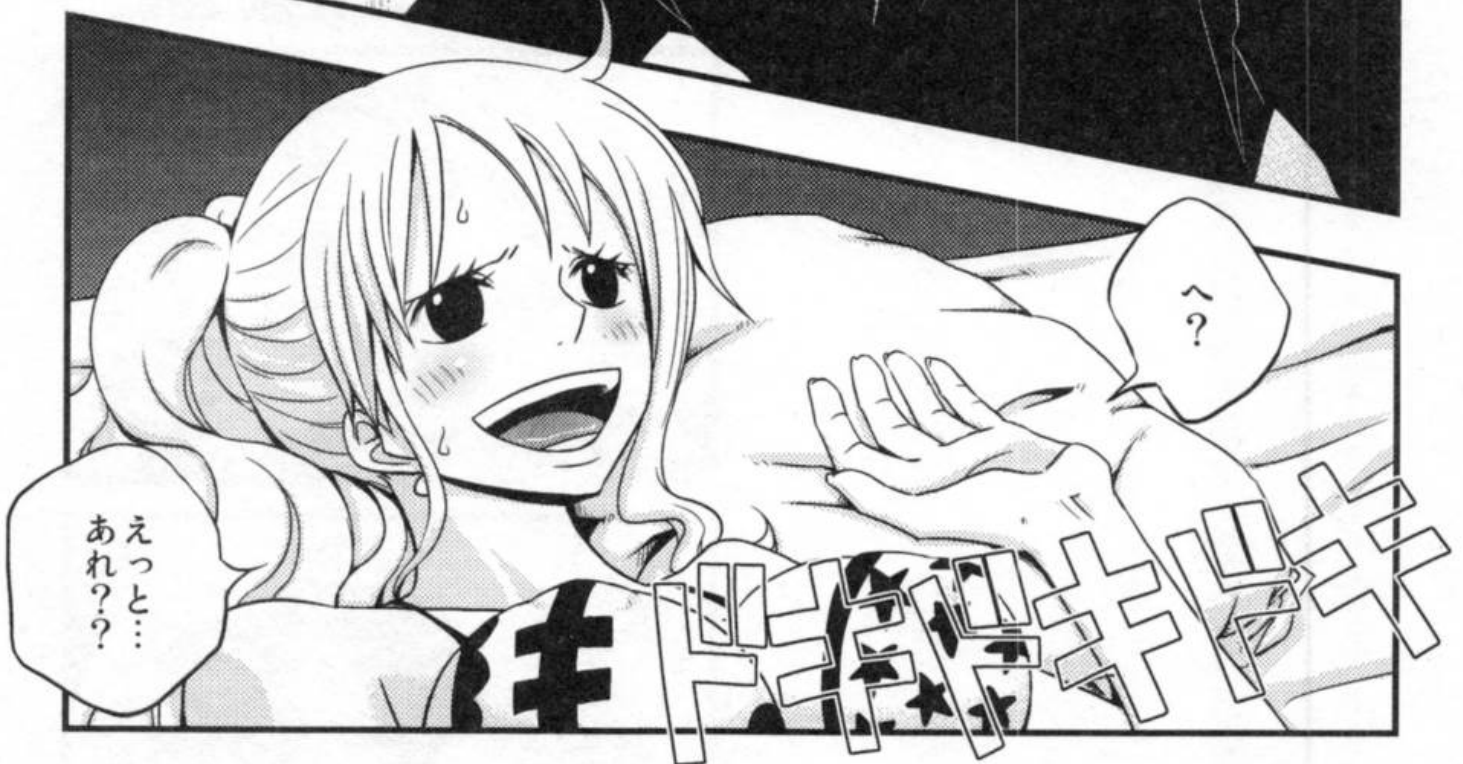
P77 - 君の唇からただそれを  
[2012.3.18]

P95 - アンソロゲスト参加漫画  
[2011.12.29]

P103 - ヤングアンドプリティラバー  
[2013.8.10]



**P5** チェンジオーバー  
2012.8.11



Change Over



# CAUTION

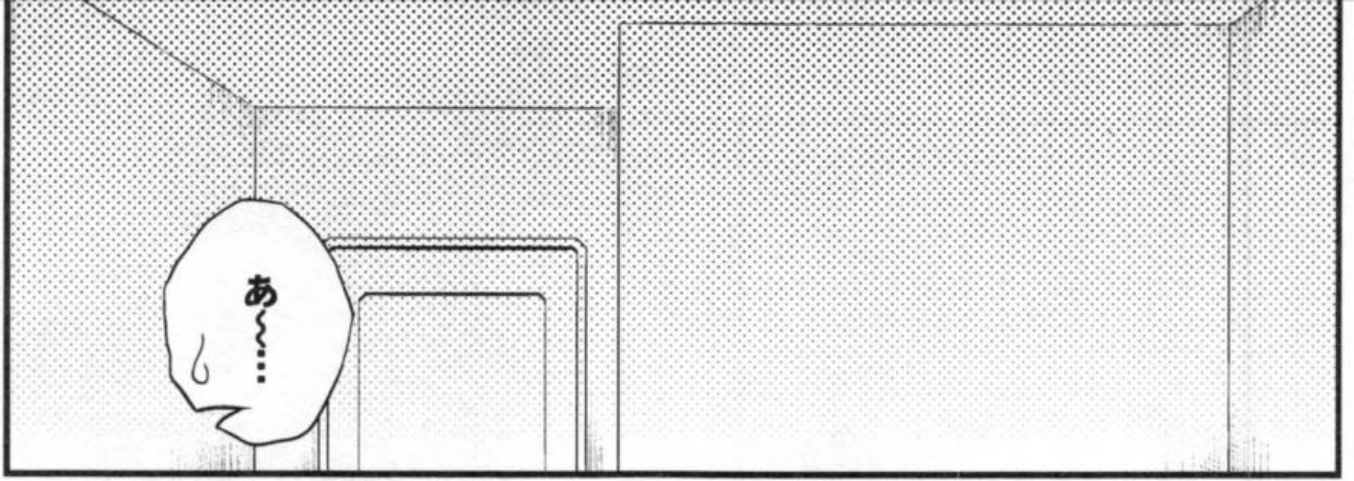
★サンジ⇄ナミ入れ替わり成立前から描き出しています。辻褄合わせつつ進行の為、細部ご容赦ください。

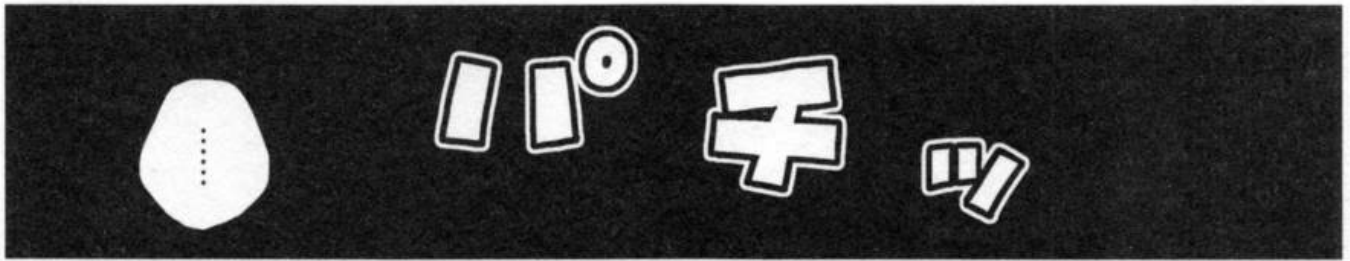
665話時点のリアルタイム感想4コマ。



## チェンジオーバー change over

1. (装置などの) 切り替え
2. (二人が) 役割 (立場・位置など) を交替する
3. (形勢の) 逆転

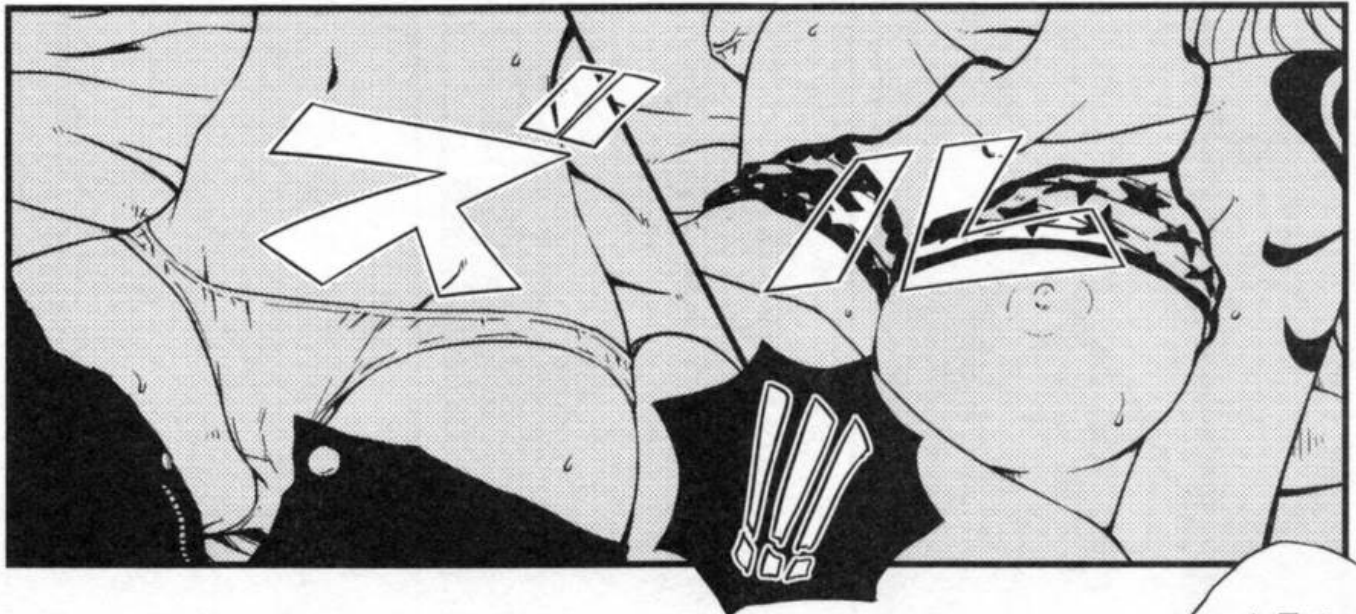


















?

はー

サンジ君  
……



んん…

!!



私のこと

好き?



ぐちゃぐちゃ

ヒクッ



ま!

!



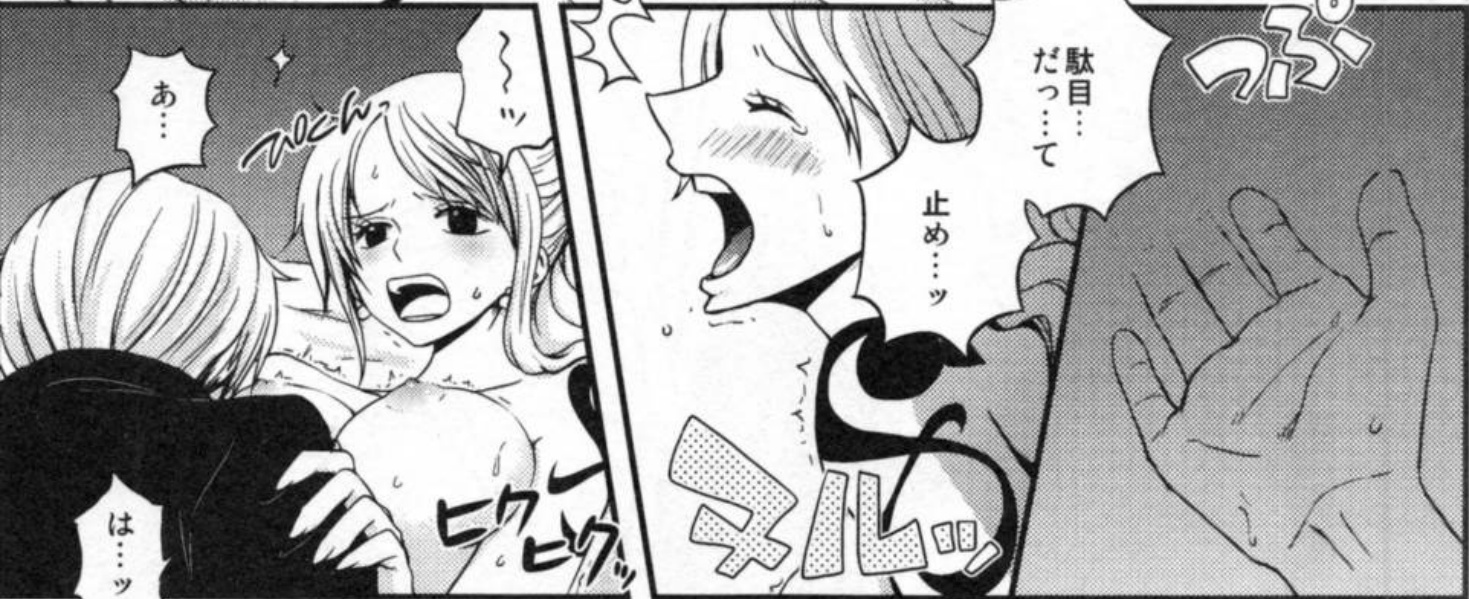
好き

……  
凄工



この状態で  
それ聞く!?

いいから  
答えて











おれ ナミさんの こと死ぬ程 好きで

いつも 我慢して たから

そりゃ そりゃ だ

は...  
こんなの... あんたの... 身体のせい... なんだ から

ナミ さんも したいん だろ?



この 気持ちは...?

だったら

...でも



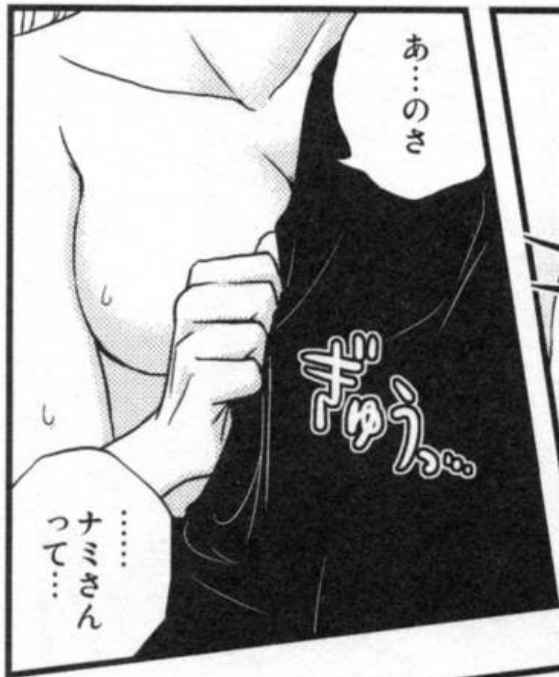
君の 身体が

おれを 求めてる

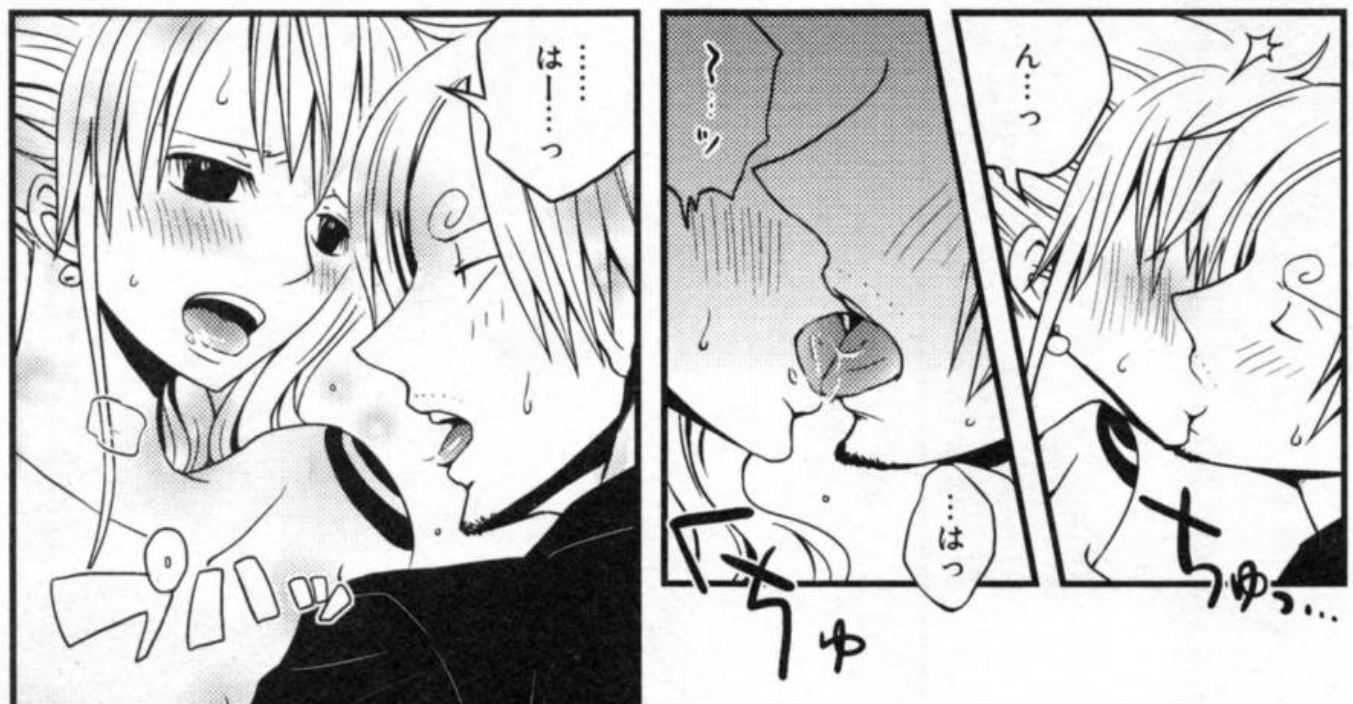
サンジ... くん...

キィッ





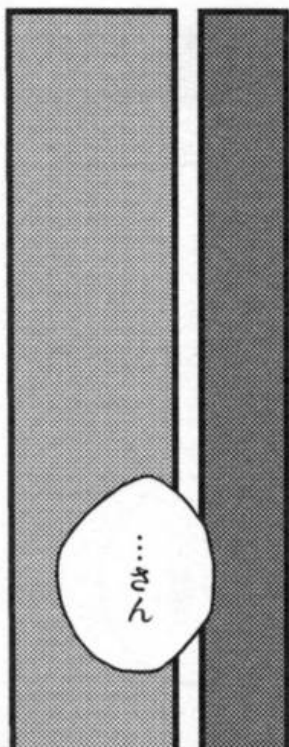








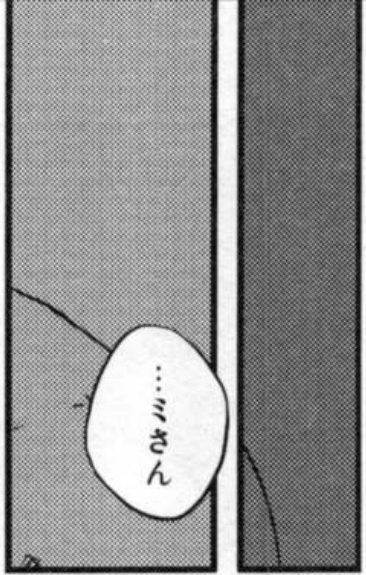






ナミさん  
起きて

!!!



…ンさん



ううん  
戻れたなら  
理由なんて  
いいわ…!!

!

良かった  
やっと…



分かん  
ねエけど  
起きたら  
戻ってて

ええ…!!  
なんで…!?

カッパッ!!



本当  
良かった

これで  
やっと

ナミさんに  
触れられる



…昨日の  
感覚が  
残って…

カアアア





みんな  
起きて  
きちやう  
し...

だ...  
だって

じゃあ  
するの  
自体は

嫌じゃ  
ない?

は...!

クッ



んん  
...  
ッ

ちゅ...

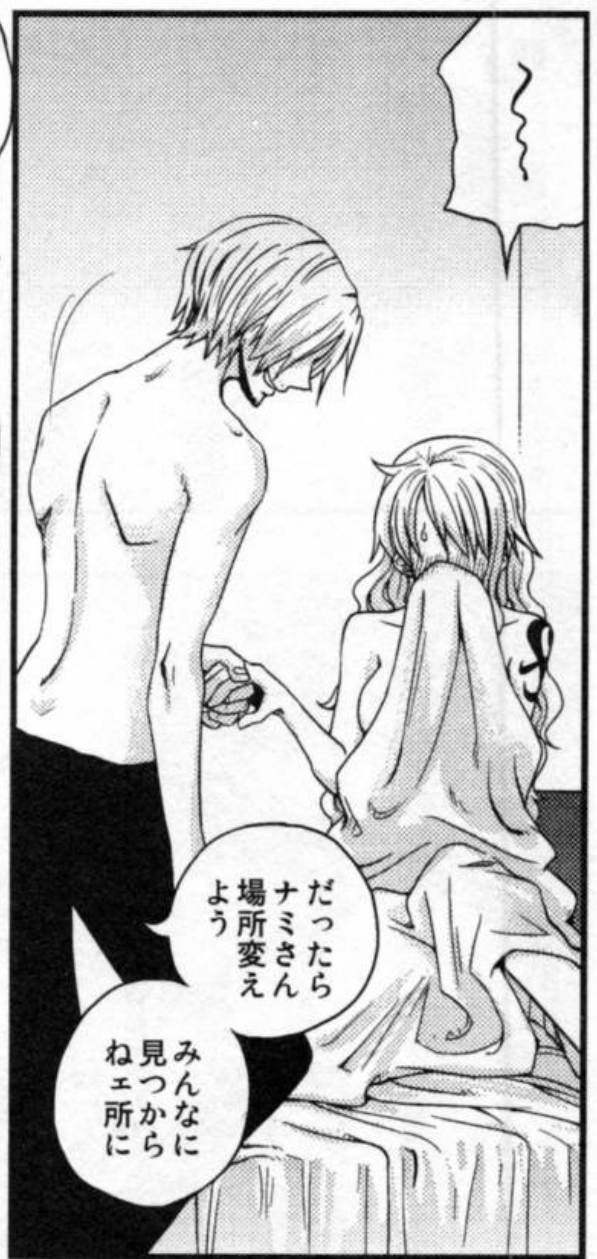


一回だけ  
だからね

ホッ...

にーッ

自分  
は二回  
した  
のに?



だったら  
ナミさん  
場所変え  
よう

みんな  
から見  
つから  
ねエ所  
に



うるさい!!

はい

努力は  
よ  
してみる

キキ





いつまで  
待たせる  
気だ

それで



やっやい

なんで  
引き留め  
なかった  
って

絡まれるの  
目に見え  
てんだろ!?

知らん

昨夜のは  
部屋に  
戻って  
なかつたわ



……  
あくもう

あいつら  
どこ行  
った  
んだ

居ねエの  
悪イんだ  
放ってお  
け

はぁあぁあ



……  
それが

残り  
は男と女  
一人  
ずつ  
だつた

……  
面倒  
だから



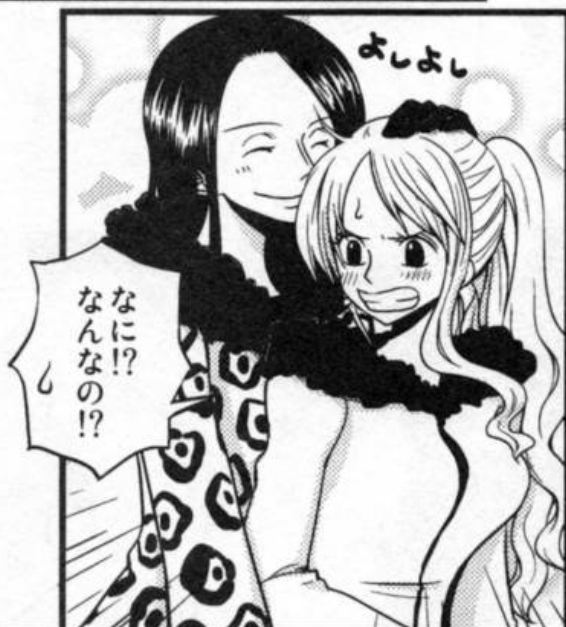
あら……  
彼は  
もう行  
って  
しま  
った  
の?

せ  
っ  
か  
ち  
ね

チル  
モ  
同行  
合流  
した  
と  
また  
こ  
が  
行  
た

先  
に  
行  
ま  
す  
待  
ち  
き  
れ  
な  
い  
の  
ぞ

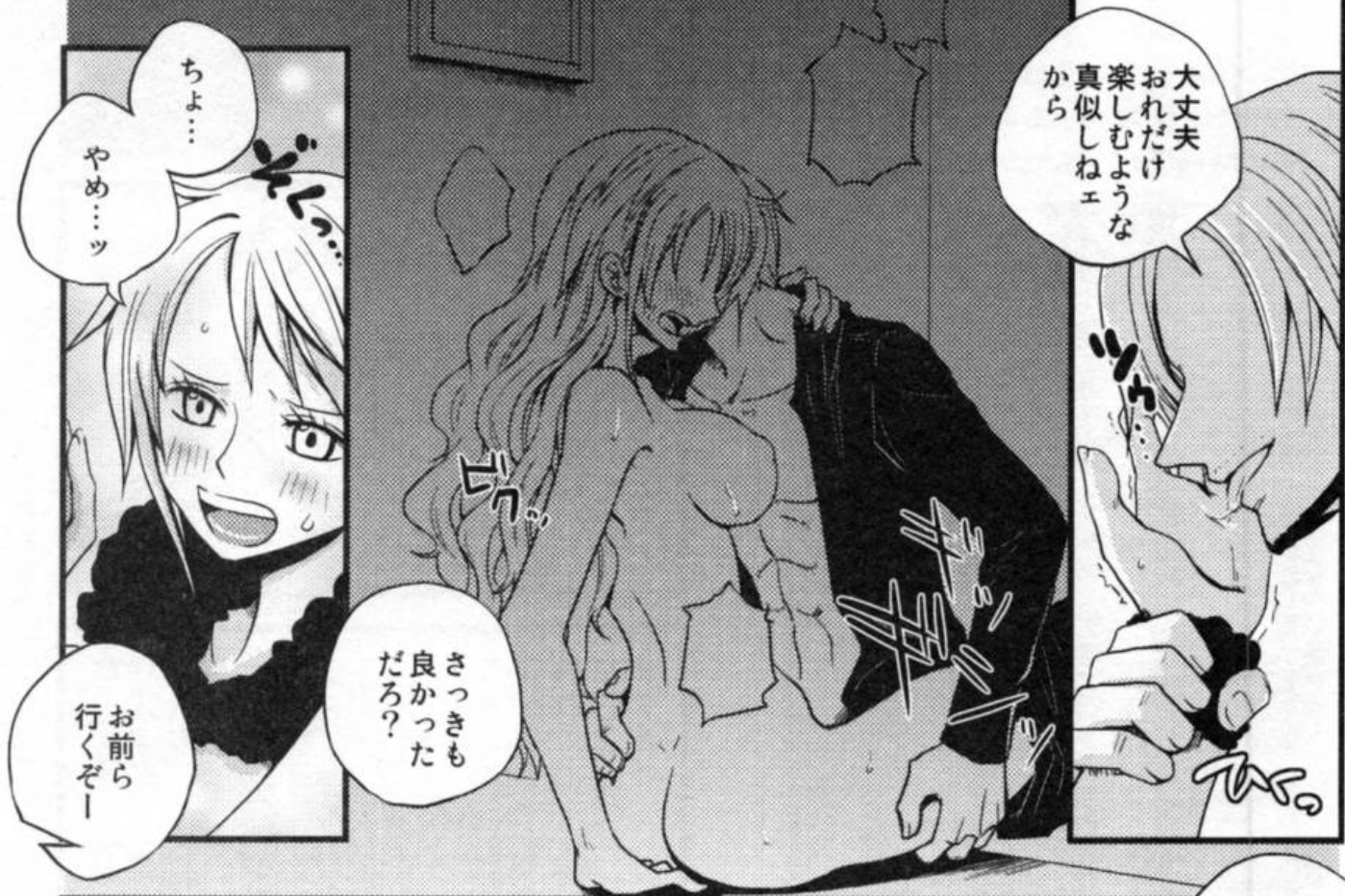






もう...  
なにが...  
どうなっ  
て...  
っ





大丈夫  
おれだけ  
楽しむよ  
うな  
真似し  
ねエ  
から

ちよ…  
やめ…ッ

さつきも  
良かった  
だろ？

お前ら  
行くぞー



くもう！  
なんで  
こんな  
ことに…!!

それも  
これも  
…!!

…また  
あとで



早く  
追いつ  
か  
ねエと

ルフィが  
なにす  
るか  
分かん  
ねエ  
だろ!!

悪  
く  
す  
ぐ  
ー  
行  
く



なんだ  
戻れて  
る  
じゃ  
ねエ  
か

よう  
その  
節は  
どー  
も♡

※後  
に合  
流  
でき  
まし  
た

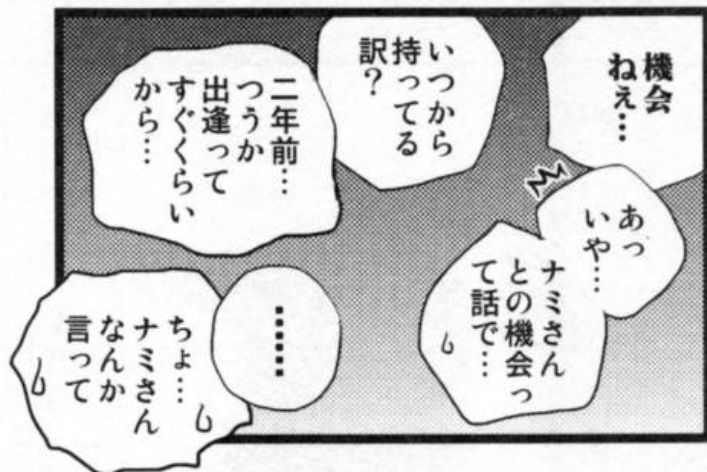
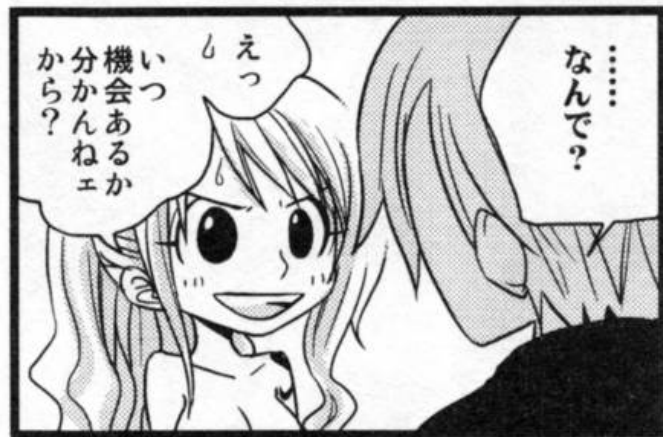
全部  
あなたの  
せい

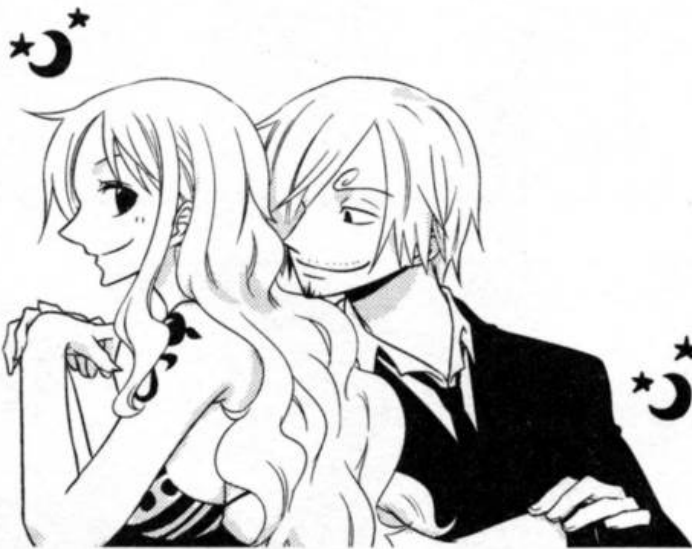
ギリ  
ギリ  
ギリ

チェンジオーバーの後日談的な続編、  
 「チェンジラウンド」もよろしくどうぞ。  
 詳細はWebサイト (<http://enako.jp/>) にて。

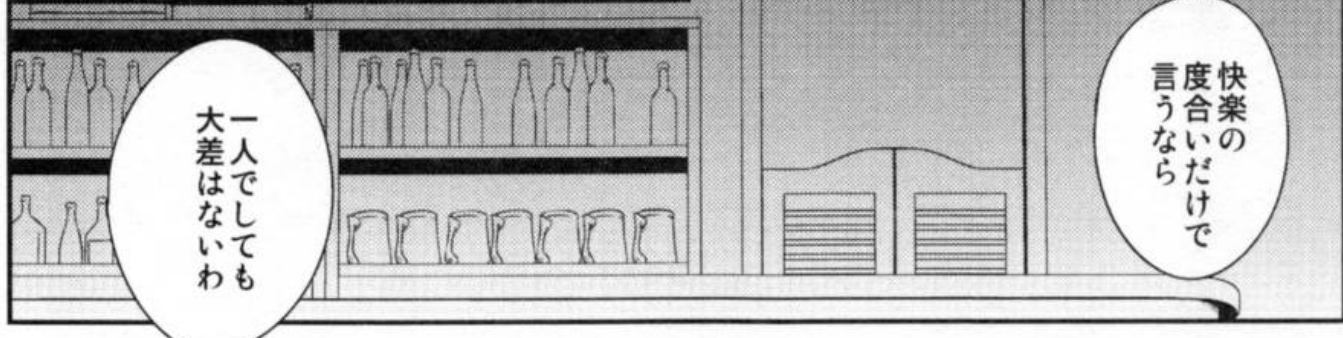


そんなこんなと色々書いて  
 いると思われまふ。





**P36** アンソロゲスト参加漫画  
2014.5.4



一人でしても  
大差はないわ

快樂の  
度合いだけで  
言うなら

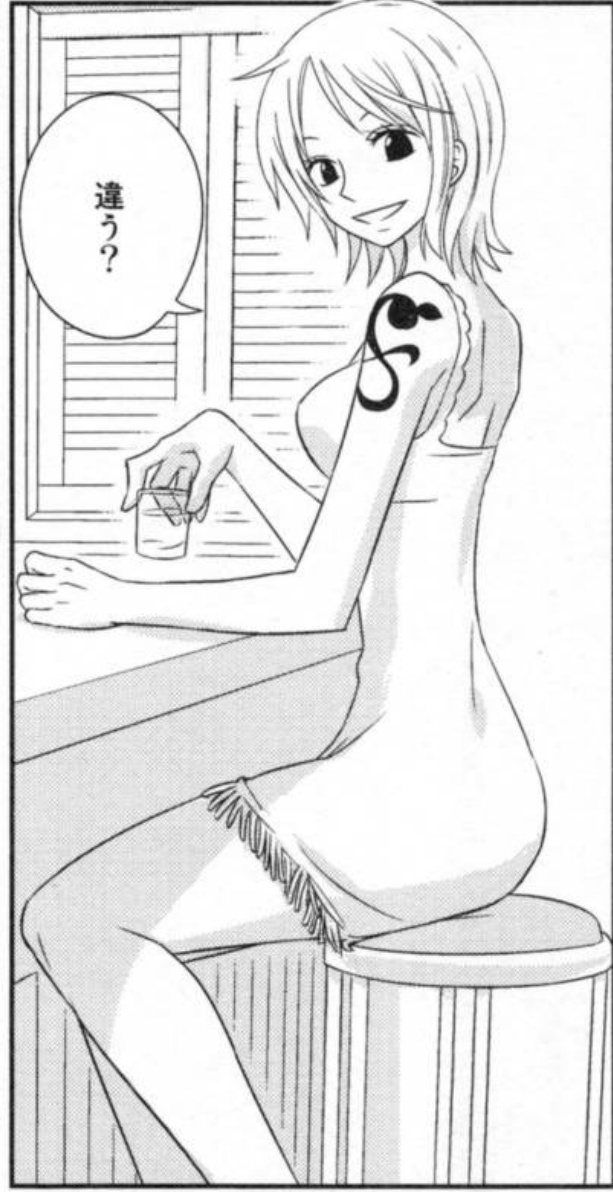


一人で  
するくらい  
なら

おれ  
手伝うよ?

結構  
うまいよ?

話聞いて  
でなかった  
!!



違う?



一瞬の為  
に快樂の媚  
びるくらい  
なら

酔っ払い!!

一人で  
十分だわ



おれの女って  
顔されるの  
目に見える  
もの



こっちが  
割り切ろうと  
したって

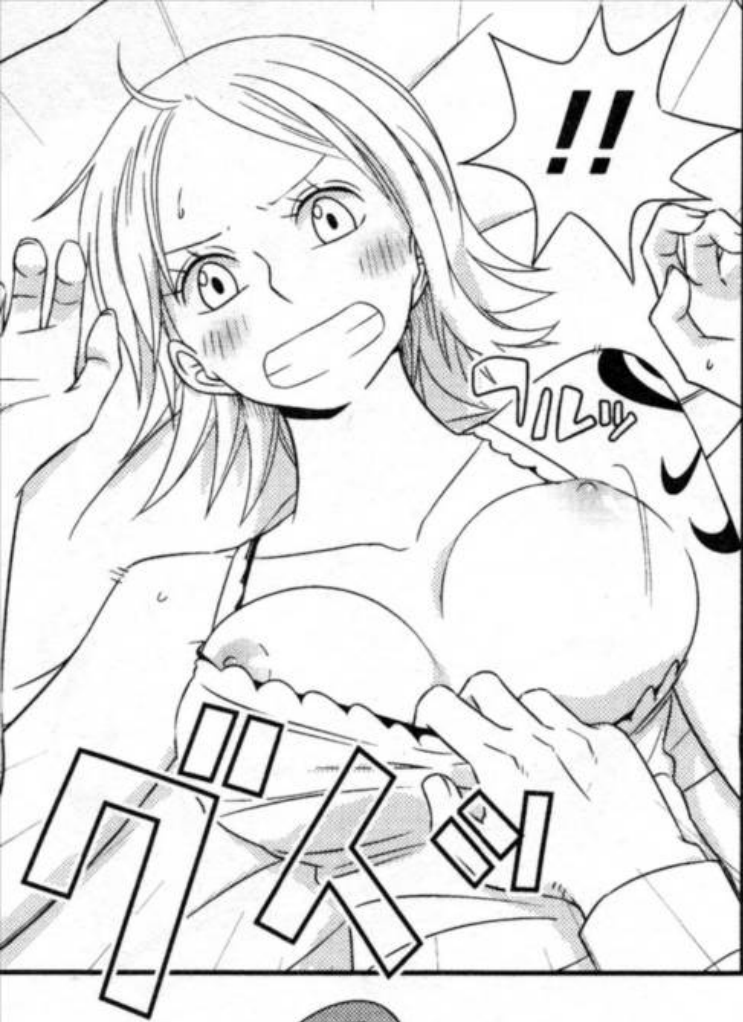


双方得を  
するなら...











…舌  
好き?

んん…



…っ

…はみ

はみ



…  
ナミさん

ふみ  
ふみ



んん…  
や…っ

んん…

☆

はみ

はみ

はみ



…君が欲しい  
だけでもない

ふみ

…  
…?

はみ



所有したい  
なんて思っ  
てねエから

おれは君を

はみ





こんな  
愛され方

……

……好きだよ

「す…」

も…

いいから  
早く…

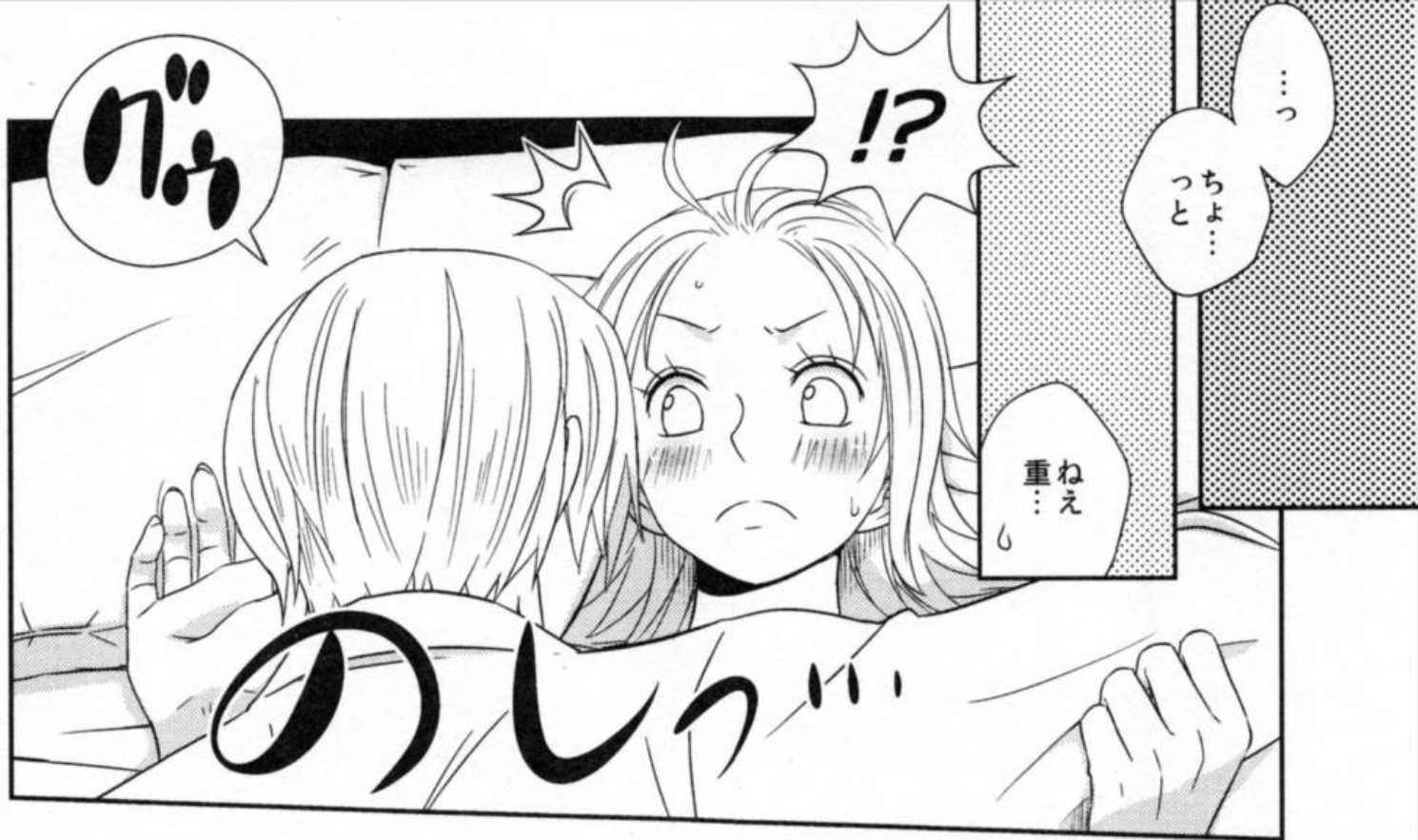
一方的に  
与えられて  
だけなんて

愛してる

——濡れて  
しまいそう

……

……っ





……



それで お預けなんて



やっ てる じゃない



どうして やろうかしら こいつ!!

重し!!

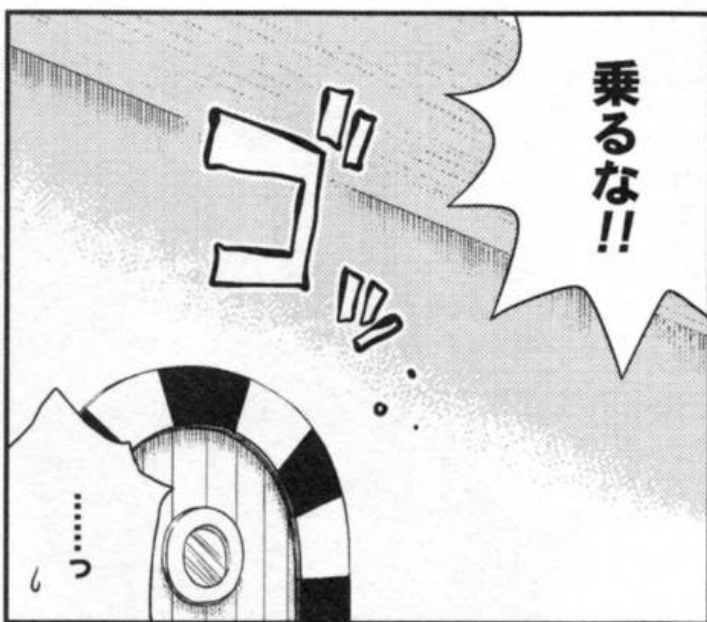
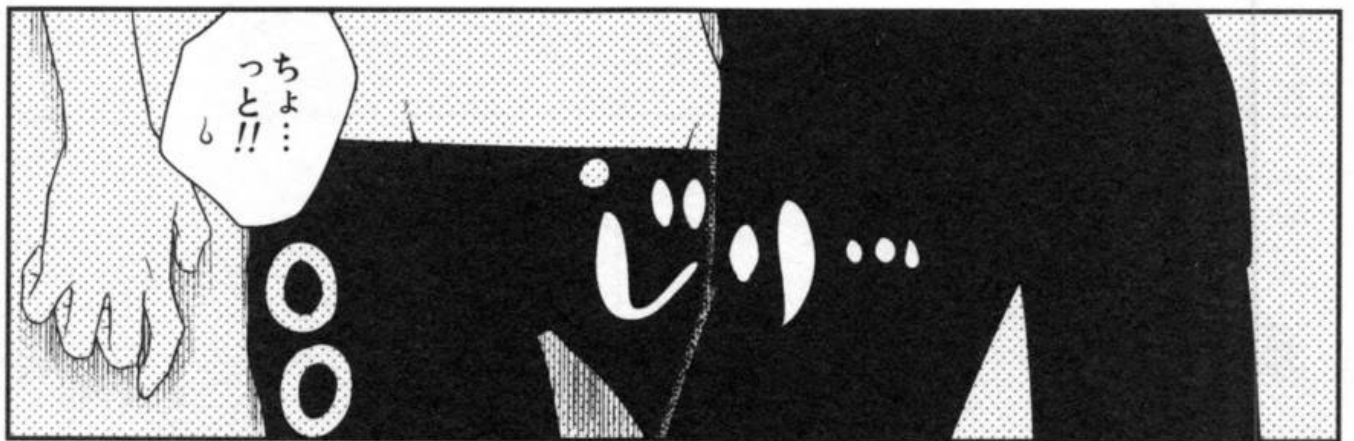
…… しても



「ぐるわらの一味」という名称が生まれたのが2013年初夏。  
その後ぐるわら不在中の2013年冬に発行した本です。



**P47** ぐるわら船長さまの言うとおりに  
2013.12.29



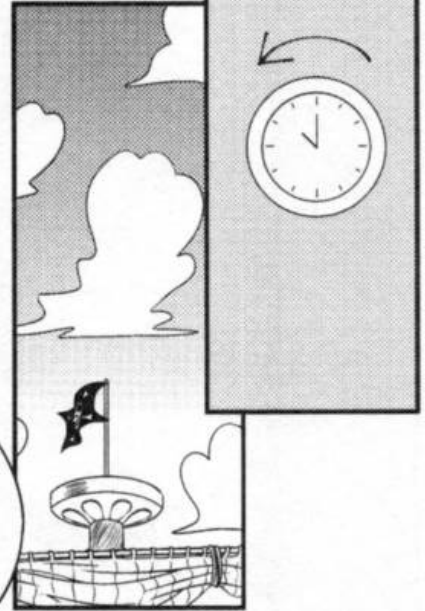


あいつらなら  
もう出掛け  
ちまったぞ

まよ...

ねえ  
ゾルフイと  
は？

ええ!!  
留守番  
決めて  
ないの!!



なんか  
サンジが...

はあ!?



だったら  
いいけど...

じゃあ  
な

あとは  
任せな  
ぜー

あつ  
ちよつと  
みんな!?

ガヤガヤガヤ



ああ  
今日はおれが  
残るから  
大丈夫だつて

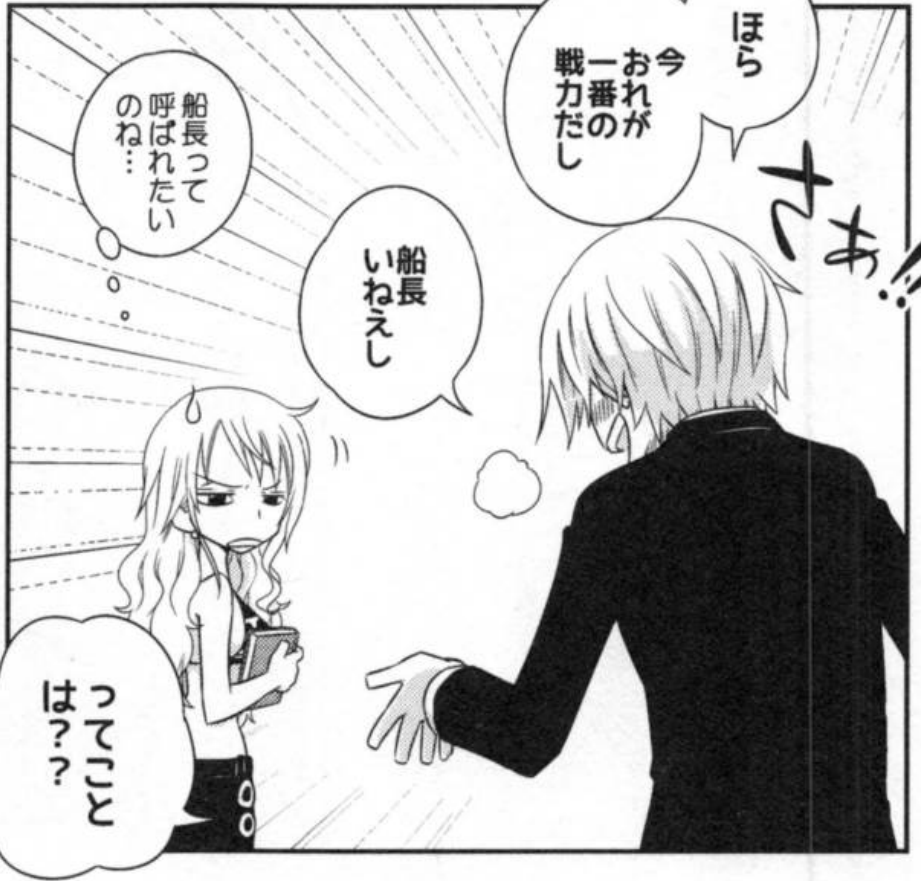


つてこと  
ナミヤん♡

なによ!!



♡ なあ  
♡ なあ  
♡ ナミさん  
♡ ナミさん



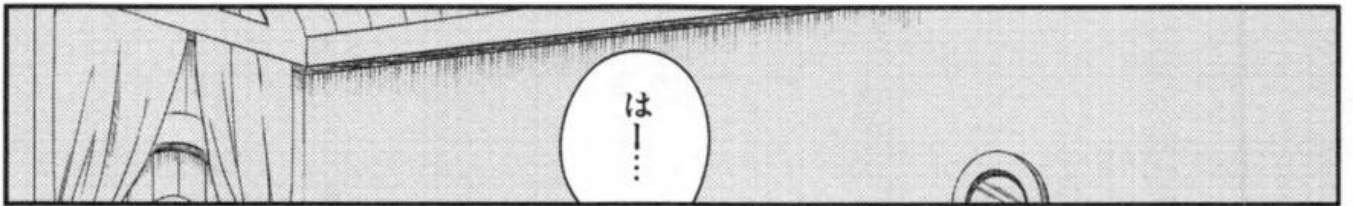
船長って  
呼ばれて  
いのね...

船長  
いねえし

ほら  
今  
おれが  
一番の  
戦力だし

なあ!!

は...?  
は...?



は...



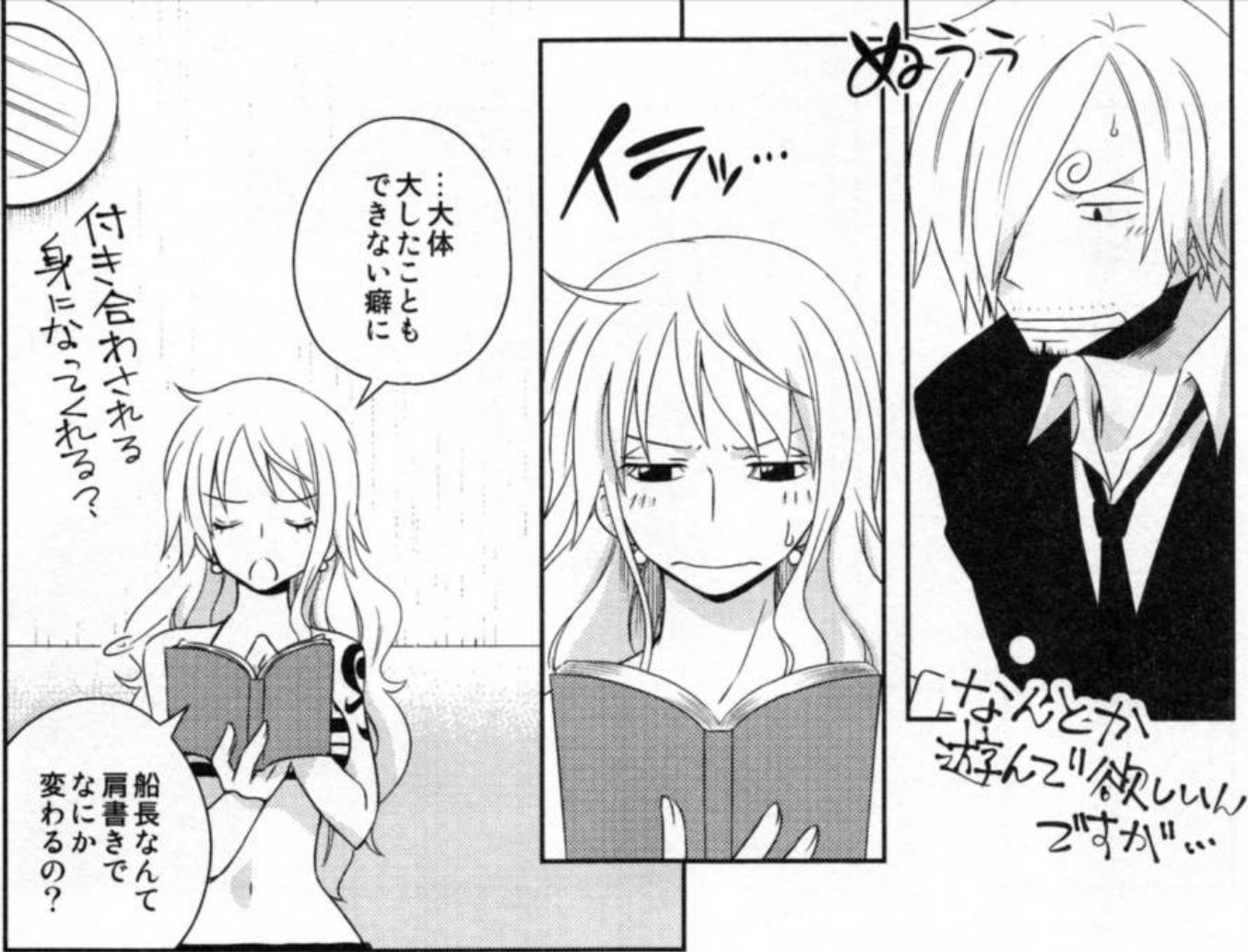
偶には二人で  
のんびりも  
いいだろ?

あんと  
二人を楽しむ  
理由がない!



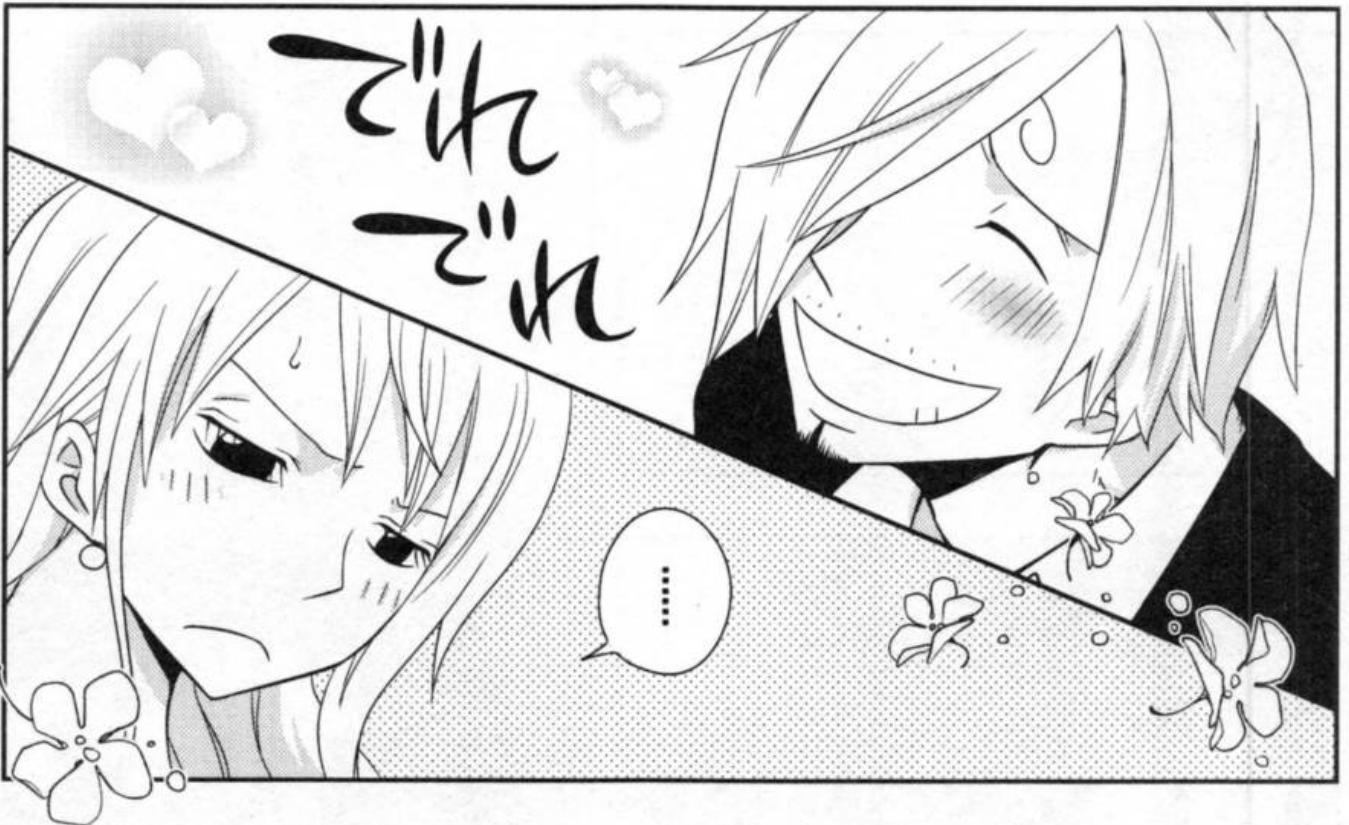
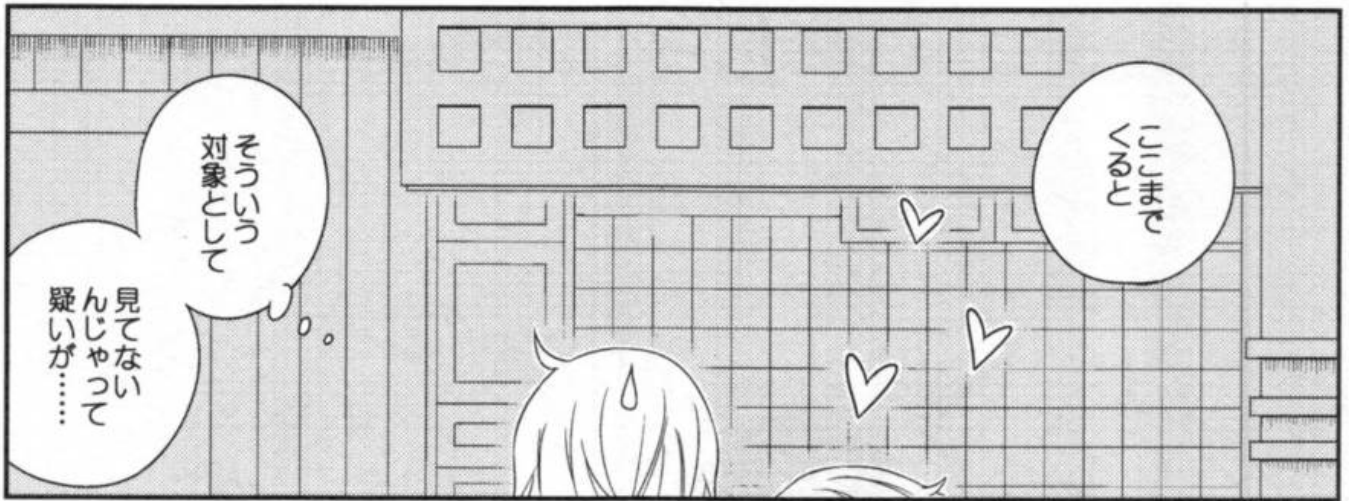
あんたの  
遊びに付き  
合わされて

私まで  
残ることに  
なったじゃ  
ない

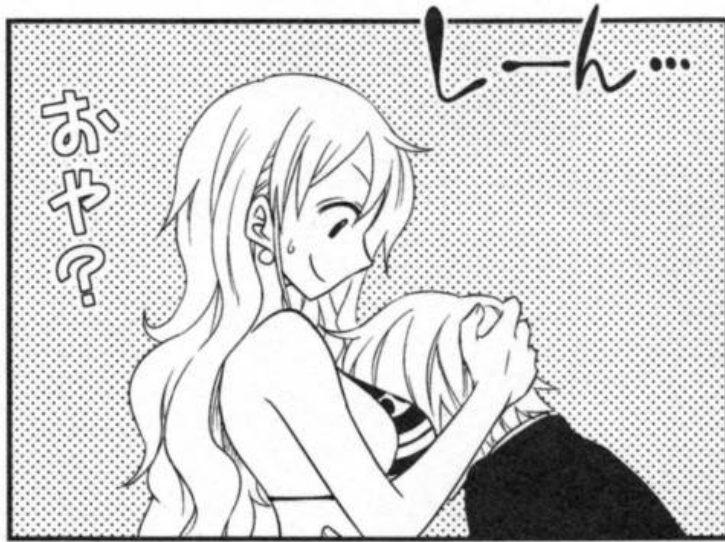




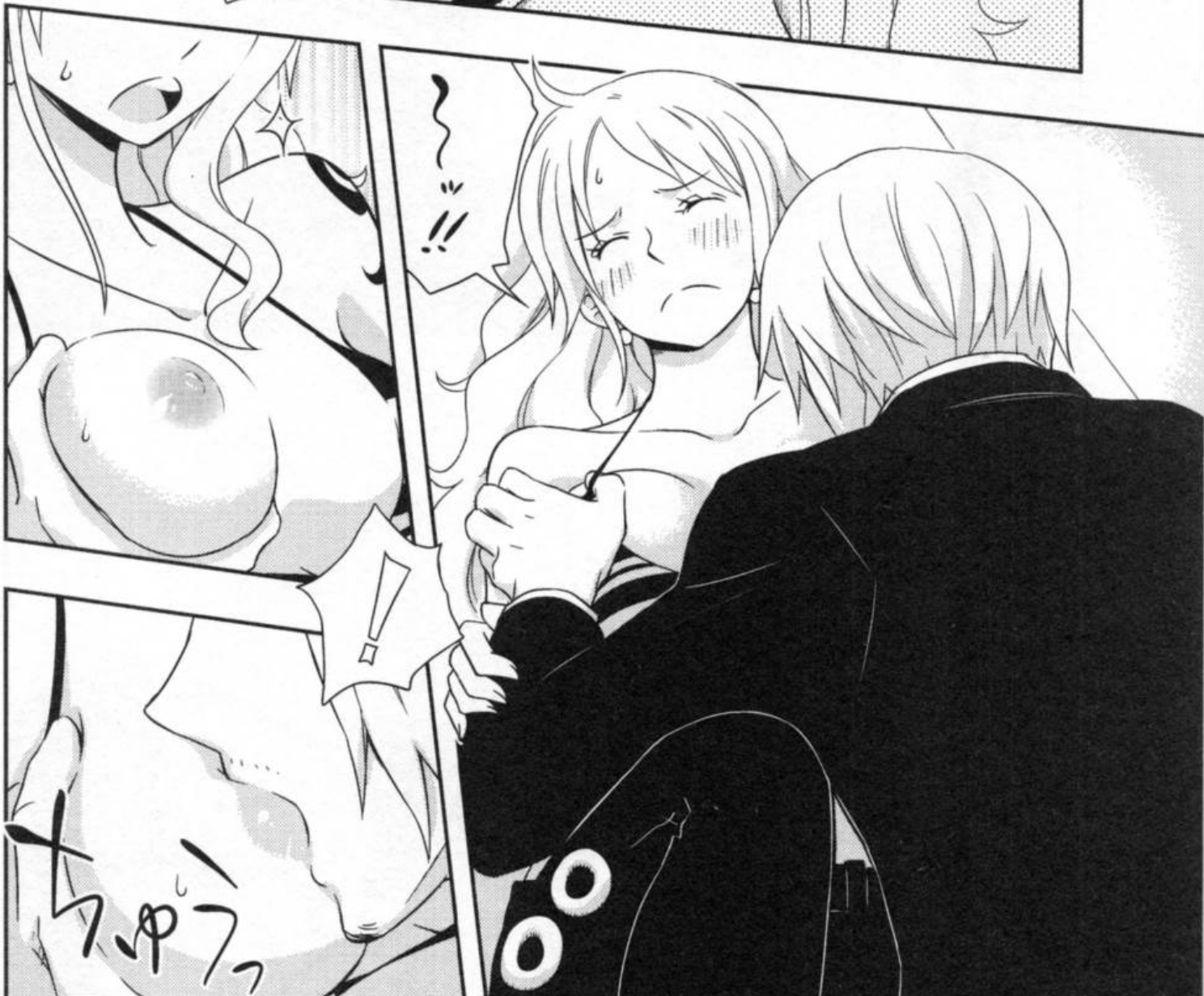














っ...!!

力強い...

当たり前  
だけど

余裕のない  
息遣い

アッ...の



ダメだ  
気づかされる



嬉しい  
な

強引  
のが

見返りを  
求めない  
優しさは



折れる隙を  
与えてくれ  
なくて

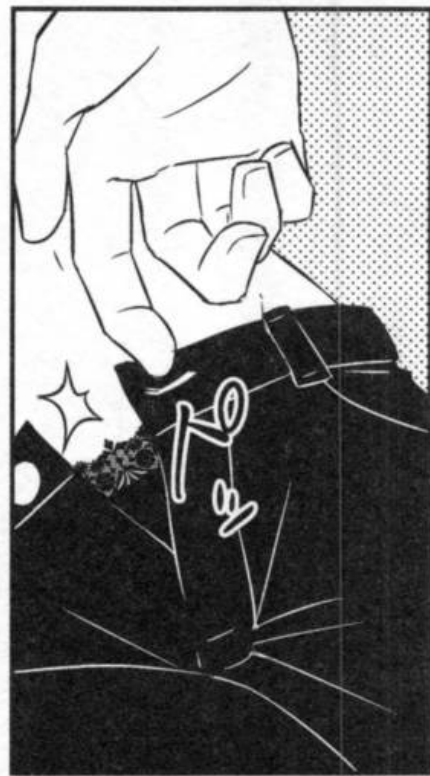
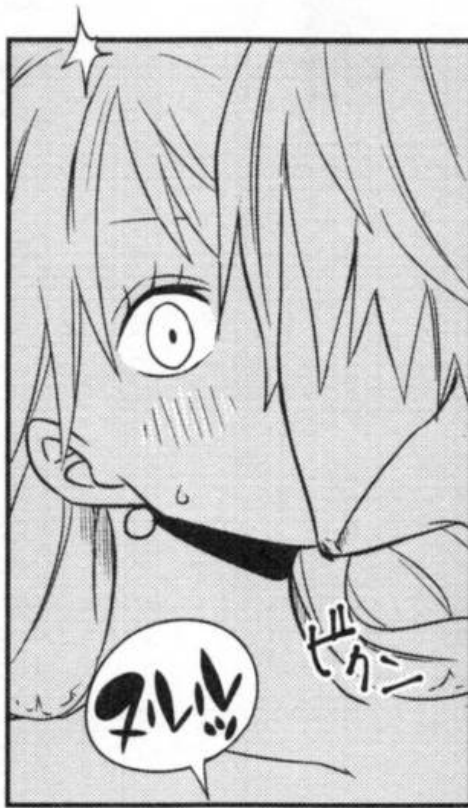


もっと



その欲を晒して――







...!!

...?

ナミさん

なんで今日は—

はま

...  
...船長命令

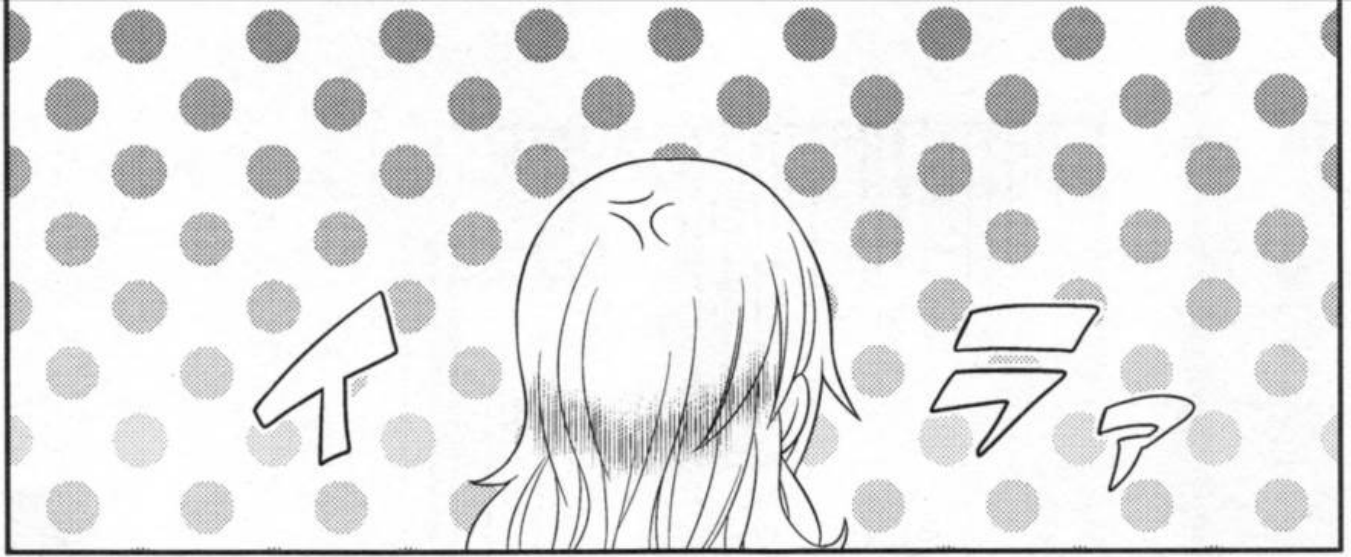
はー

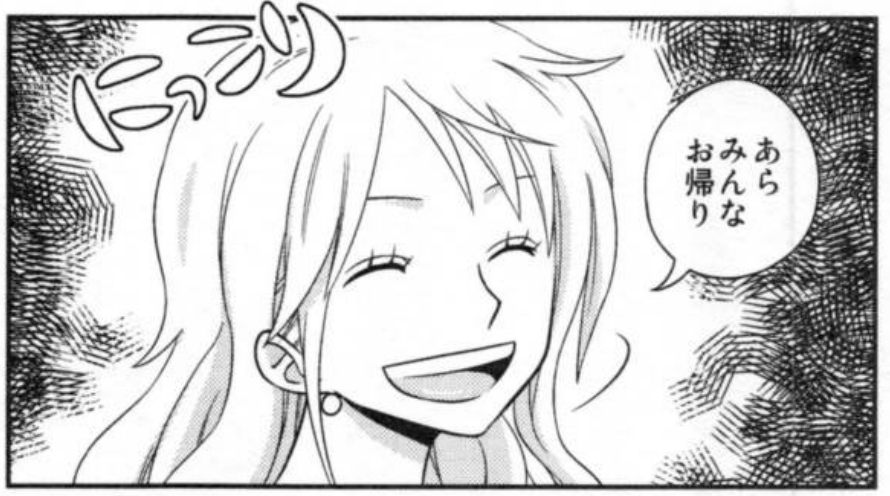
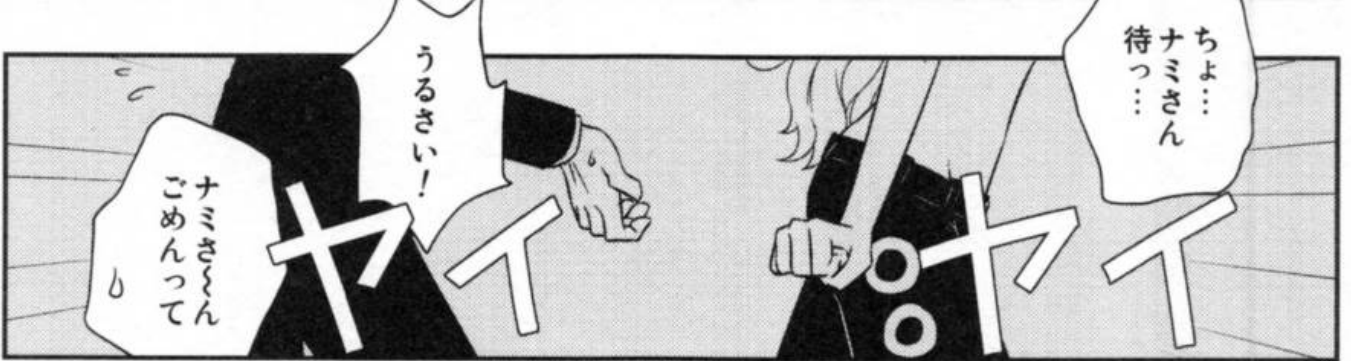
なんでしょ...?

...?





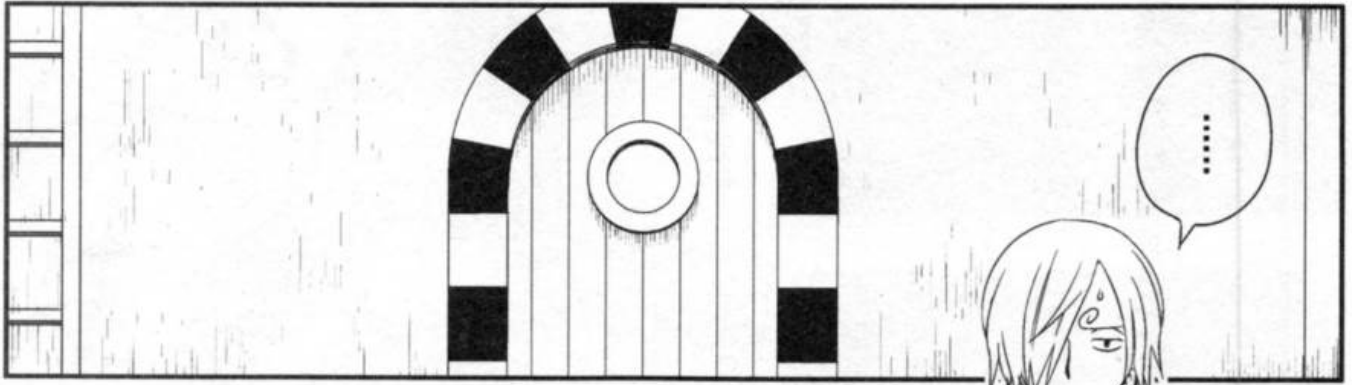




後半



ぐるわら  
船長さまの  
言うとおり





じゅんじゅん

…で



…そう

ルフィ  
たちは？

また  
出かけた  
まっただよ



なにしてるの  
それ

ないや  
ごめんか  
…



その



いや...  
本当ごめん

お安く  
ないんだ  
けど

誰にでも  
許すほど



ただ一言が  
あれば



質問は  
なし

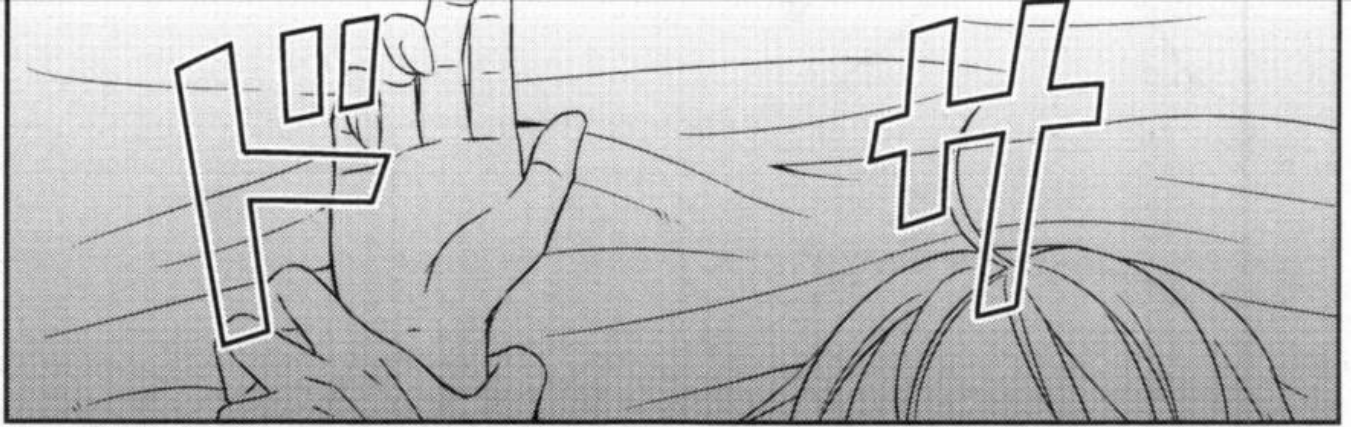
今だけ…

“命令”  
だったら  
きいてあげる  
けど

次は

押さえ  
きかねえ  
よ?

：質問は  
なして  
言ったわよ



な…に？

…声



我慢  
しないで  
声出して

ん…っ

ぐわ



…  
さつき  
まで  
ためらって  
たくせに

…  
っ

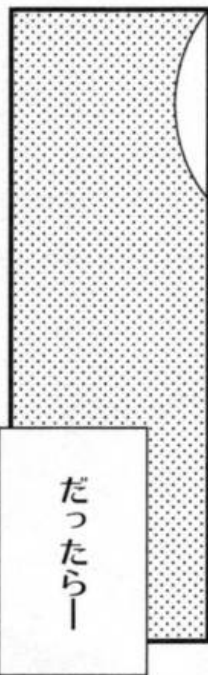
命令

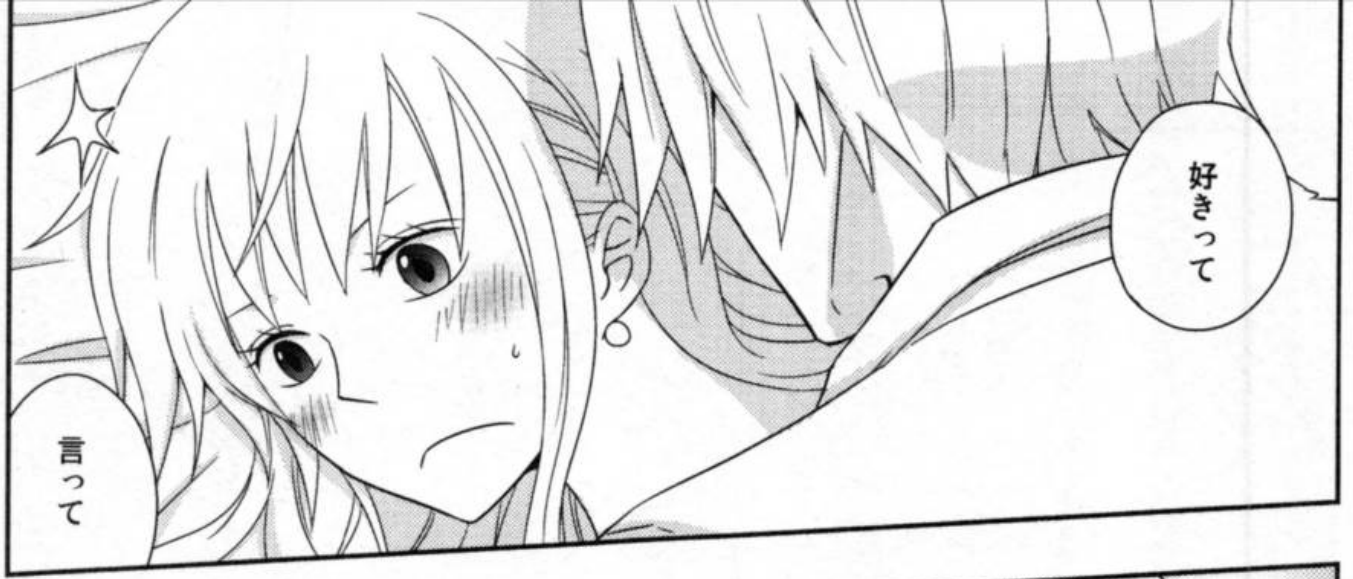


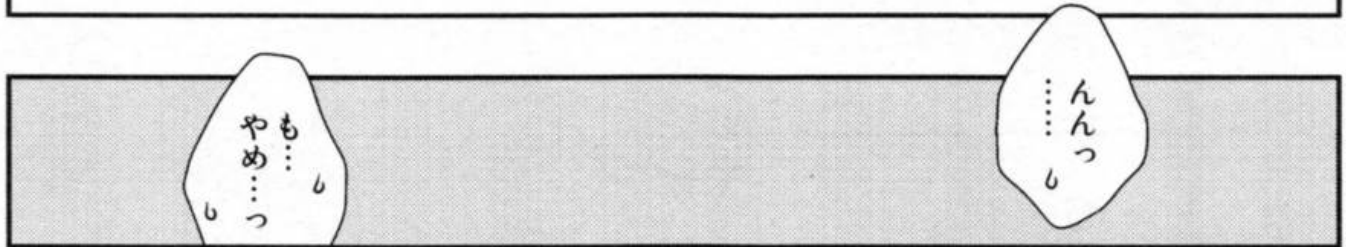
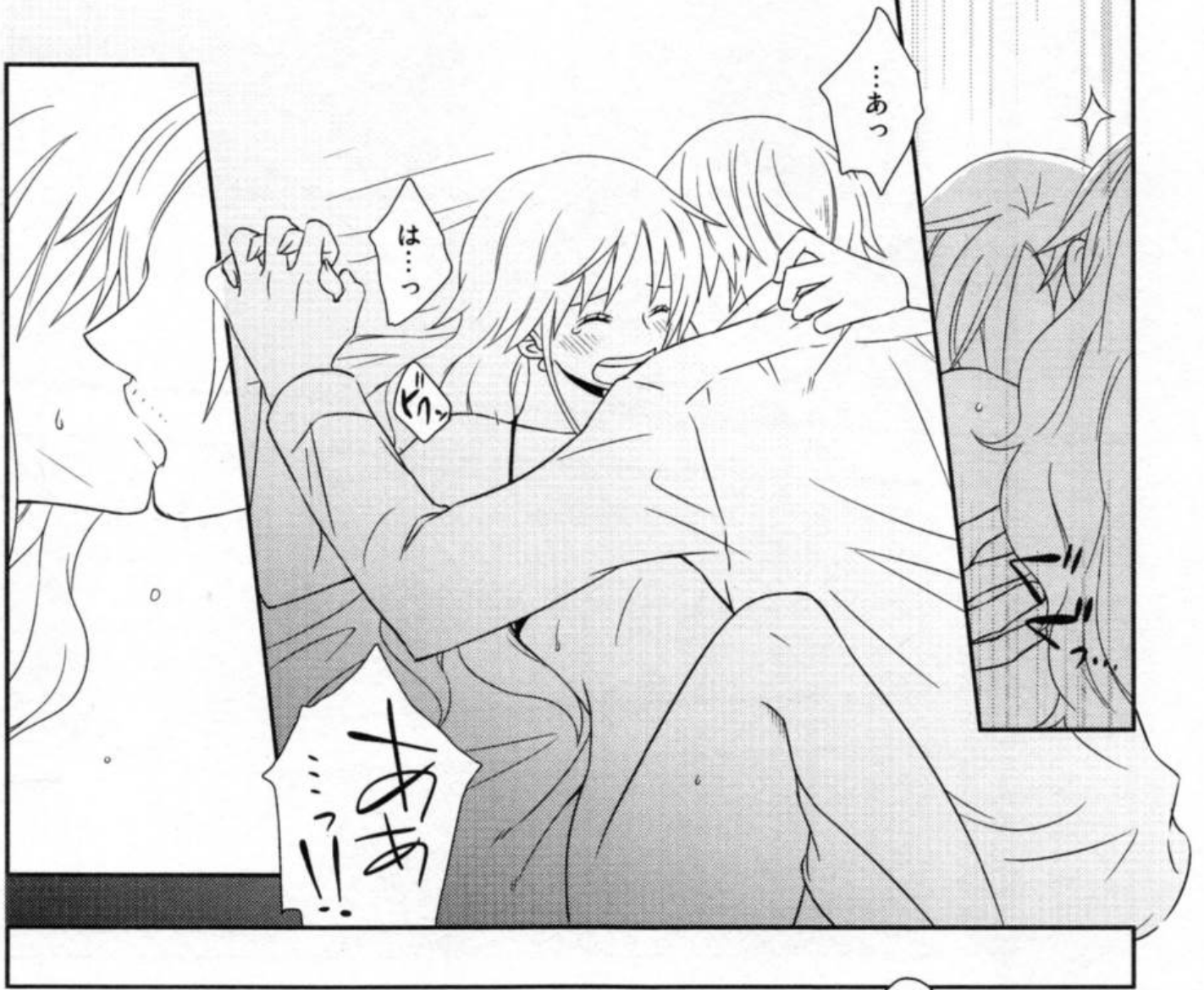
誘ったのは  
ナミさん  
だぜ？

は…











...その  
あんなにか  
じゃねえか  
けど

一々反応が  
おかしいし  
いって  
なにか  
あったん  
でしょ!

なにして?



いや  
クルーが船長  
信頼するのは  
当然で...  
ナミさんが  
あいつに

...本物と  
同じにとは  
言わねえけど  
もっとおれに  
頼ってくれても  
いいんじゃない  
ねえかなって...



特別そうって  
ことじゃねえ  
だろうけど...



~~~~~



~~~~~  
ナミさんって  
ヘタレ好き?

そんなの  
好きな訳  
ないでしょ

……  
分かんねエ  
なア

君は

耳を打つ  
重なり合わない  
二人の鼓動が

噛み合わない  
歯車のようで

……それは  
こっちの  
台詞

すれ違う想いが  
もどかしくて

もっかい  
繋がれば  
分かるかも

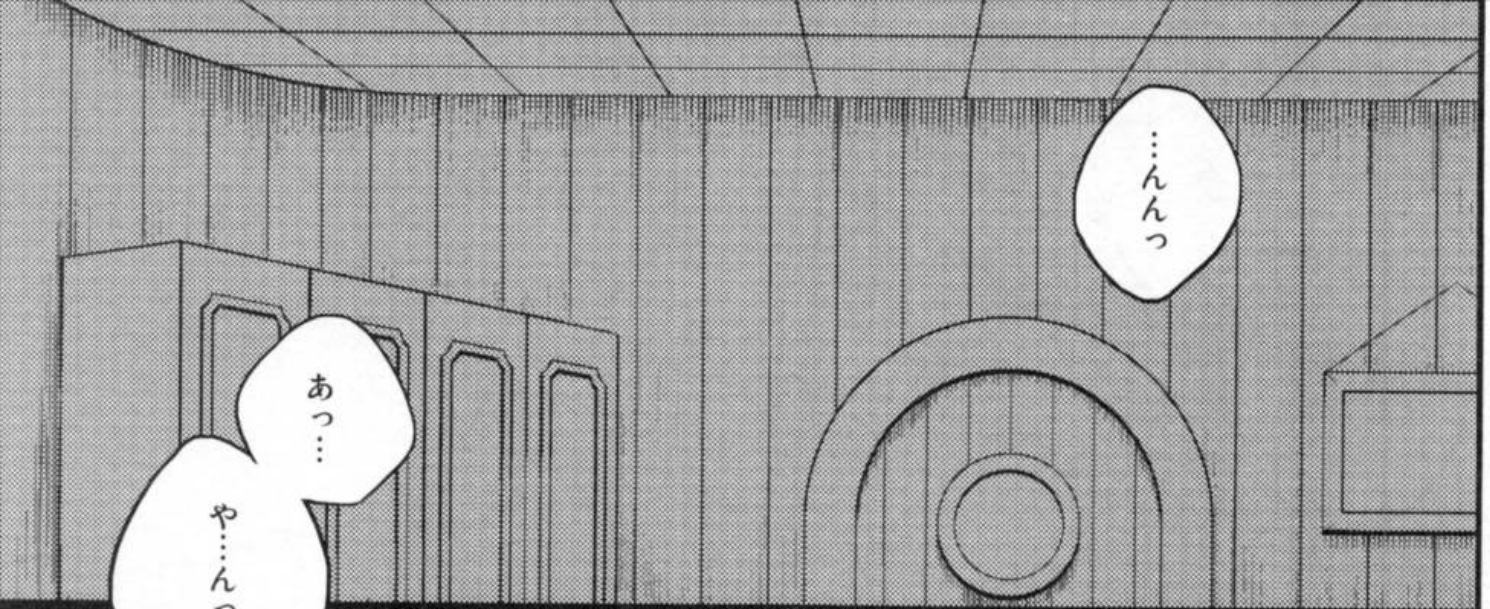
いやよ!  
誰か帰って  
来るかも……

堪らなく  
愛おしくて――

……ッ  
ダメ  
船長命令  
だから



**P77 君の唇からただそれを**  
2012.3.18



…んんっ

あっ…

や…んんっ…

身体が繋がれば全てを得られると思っていた



んんっ

んんっ…

んんっ

けれど繋がって分かったのは



んんっ…

んんっ…

心には触れられないという事実











ほら集中  
しなつて

おっ

も...  
そういうこと  
ばっかり  
言つて...!!

っ  
ぶ

!!



ナミさん

やっ...  
...んんっ

すっげえ  
ぬれぬれ

びん

ちんちん

欲しい?



いいよ

ナミさん  
訊くと答えて  
くれねエよな

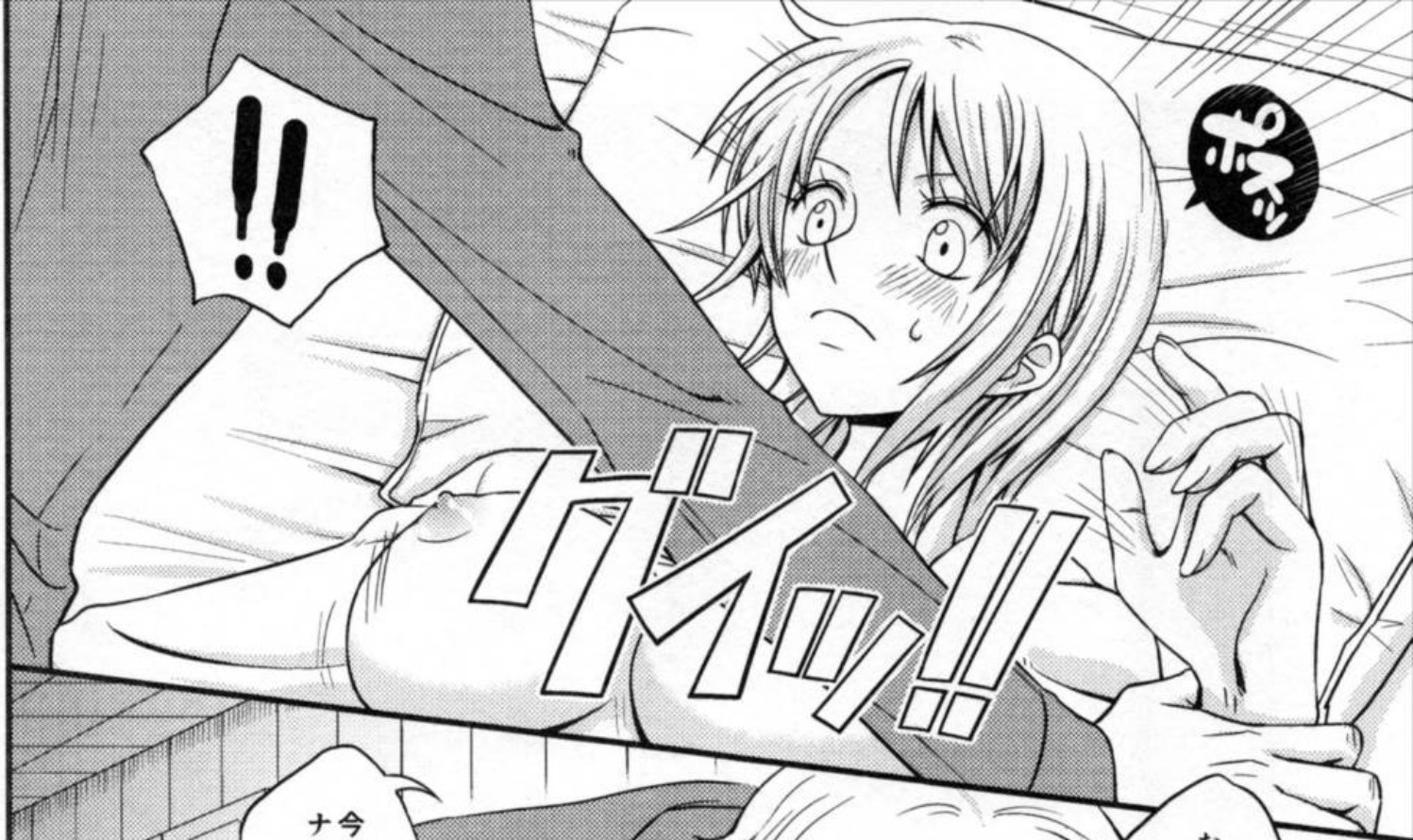
分かつ...  
てる...なら...

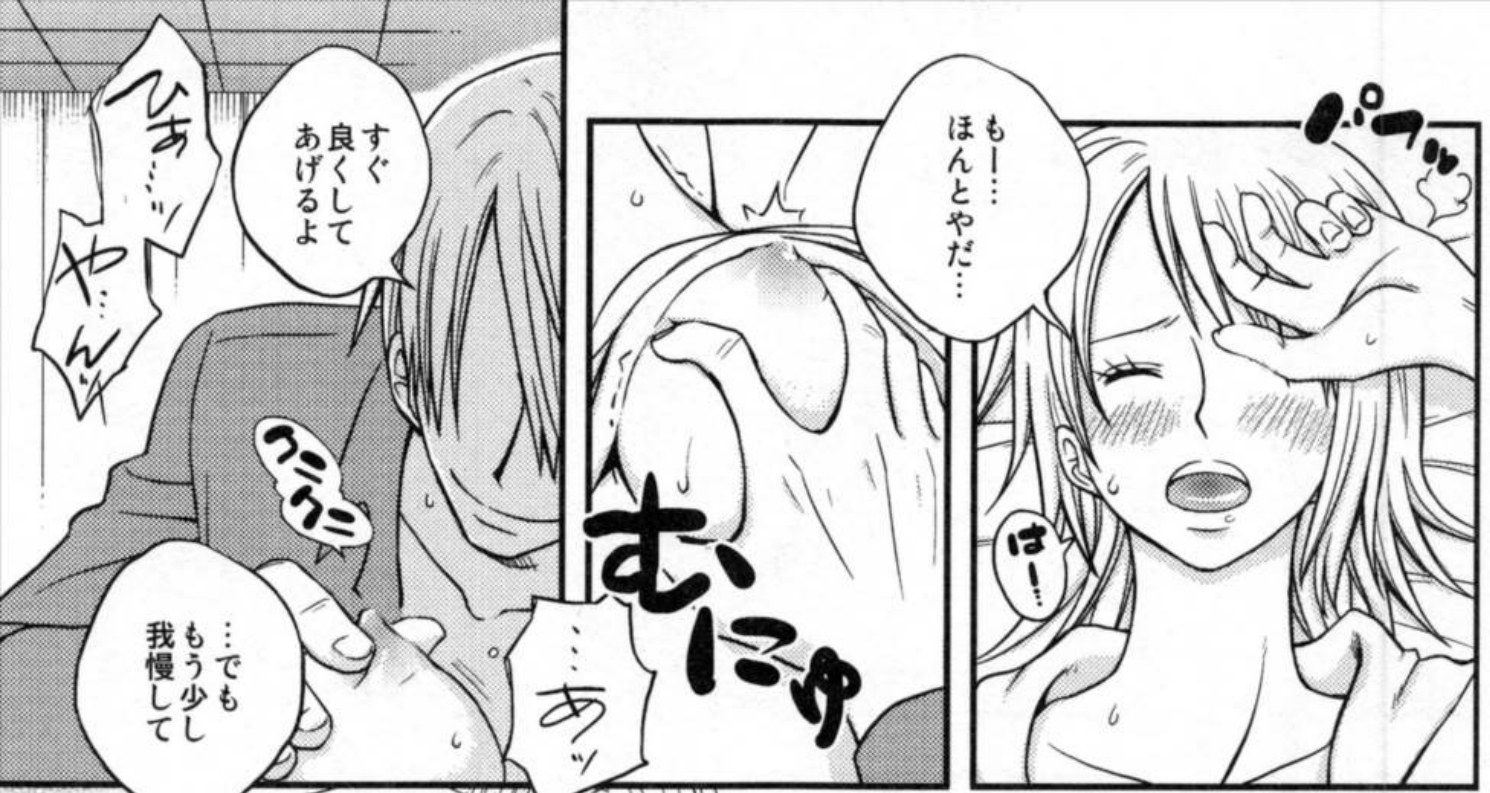


バカ...!

は...  
はあ...







好き…

散々に  
焦らして  
なぶって

サンジ君

…すき

ようやく  
聞ける  
その言葉

……ッ

ナミさん  
！…

カキカキ



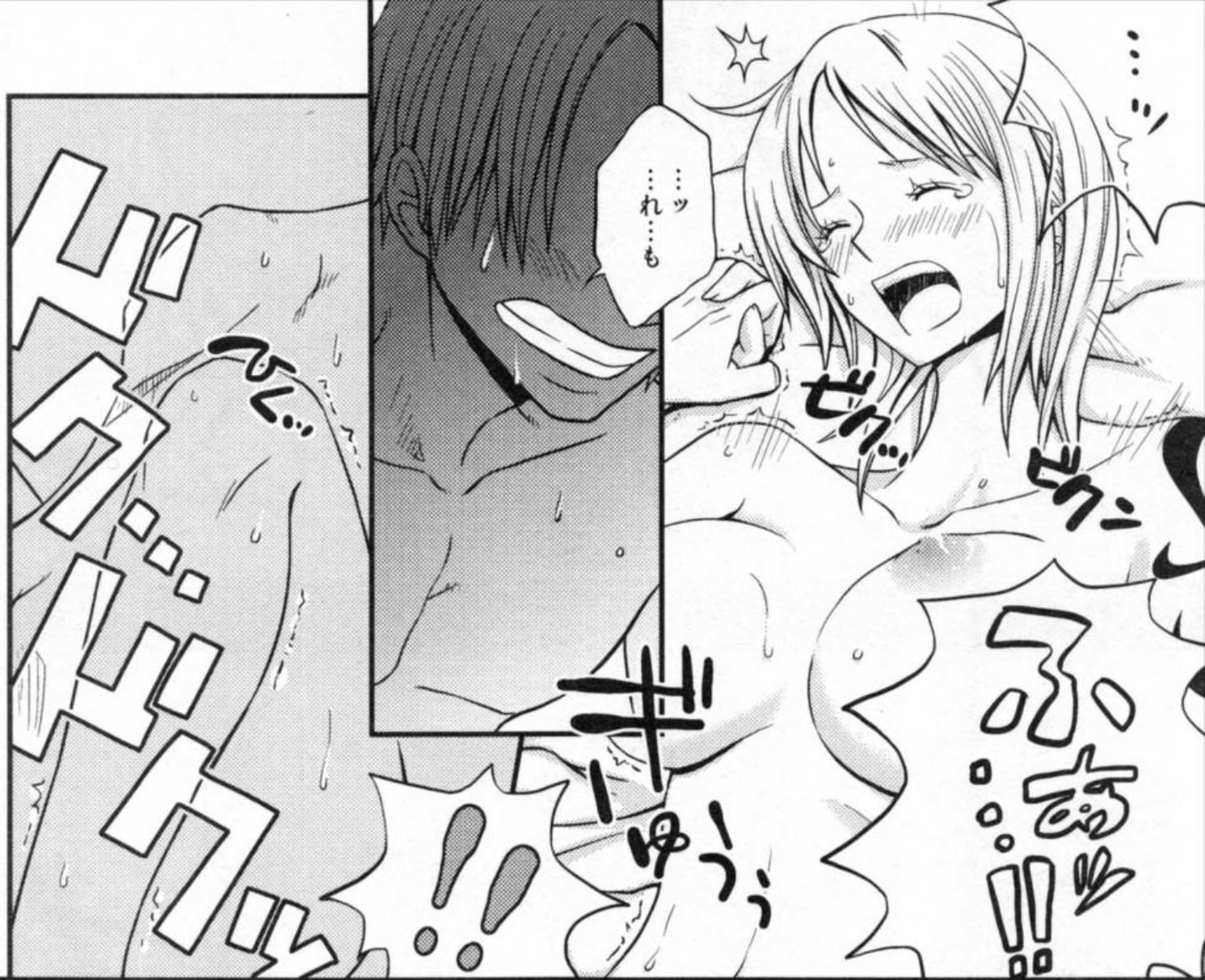
真実なのか ただのうわことなのか



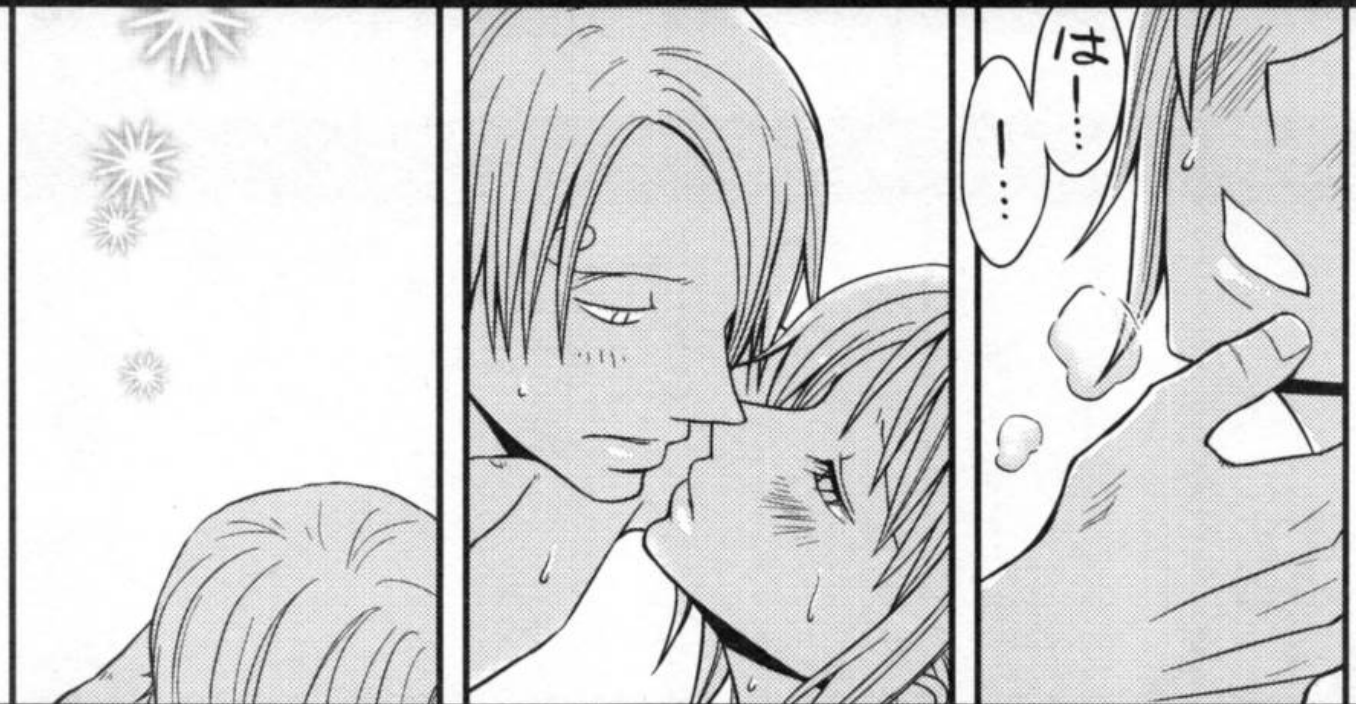
判することのできない眩きにすがりつく







その唇から零れる言葉も 吐息も全て



欠片も余さず喰らい尽くしたい



……  
サンジ君  
って時々

すっごく  
意地悪よね



そう  
だっけ？

そうよ！

……  
時々  
たっぷり  
サービス  
しねえと



本当の  
ことを言えば

君はまた  
口をつぐんで  
しまうから

ナミさん  
不機嫌に  
なるから

ナミさん

な…なら  
ないわよ！！

なるよ

むー

君の愛に  
すが  
おれは

……  
好きだよ

ただ  
君の唇から  
それを

あなたの指先からただそれを

その指先が腹立たしかった。優しく身体を這い、弄び、時に言葉よりも雄弁に語りかける、その指先が腹立たしかった。

うつすらと目を開けば、視界に入るのは見慣れた女部屋の天井。だが室内は熱い吐息に満たされ、目前で揺れ、さらさらと流れる金の髪も、普段はこの場にそぐわないものだ。

まだ衣服を身に着けたままだというのに、先刻から執拗に与えられる刺激に、身体はすっかり熱を帯びていた。痺れるような甘い感覚に身体を浸され、それでも偶に抵抗してみせるが、容易く力で捻じ伏せられてしまう。強くは力の籠められない、緩やかな拘束は快かった。行為に溺れるのは本意ではないと、言い逃れる余地を与えて貰うかのようだった。

幾度目か知れない口付けが落とされる。捻じ込まれ、誘うように蠢く舌に、自分のそれを遠慮がちに絡める。舌同士は滑らかな感触が擦れ合い、ぞくぞくと背筋が震えた。混ざり合う二人分の唾液は下になった私の喉へと注がれ、漸く唇が離れると、喉を鳴らしそれを飲み下した。

胸元に伸ばされた手がジッパーを掴み、一息に押し下げる。

ロングパーカーの下はキャミソールと下着だけしか身に着けていない。肌の晒される部分を不躰な視線が這い、彼は満足そうに口許を歪める。

「やらしい格好」

「——あんたの為じゃないわよ」

風呂上りの寛いでいたところへ押し掛けられたのだ。まるでこちらから誘ったかのような言い方に腹を立てて見せたが、甘えるように求められ、なし崩しに押し倒されてしまったことを、密かに喜んでいたのも事実だ。

おれの為じゃないなら誰の為だとか、妬げちまうだとか、くすくすと笑いながらに続けられる言葉の応酬の中でもその手は休まらず、腹部の覗く肌にひたりと当てられた掌が、じわりじわりと這い上がり、キャミソールをすっかり押し上げてしまった。彼の目前に晒された膨らみの先端は、室温と視線の為に緊張し、みるみる堅くなってしまった。

膨らみに宛がわれた手は、初めは形をなぞるようにゆっくりと、やがて指を食い込ませる程に力を籠めて感触を楽しんでいる。先端を指で挟まれこねられる度に、身体はぴくりと跳ねて、意図せずとも相手に快楽を伝えてしまう。

あまりに手馴れた行為に、時折苛立ちが沸き起こる。今ま

で何人を相手にしてきたというのか。妬くというならこちらの話だ。

余計な考えを振り払うべく、ぎゅっと目を閉じ、与えられる刺激にだけ集中しようとする、不意に胸元が熱くぬめる感触に囚われた。

「——ッ、ああ……ん、ッ！」

堪らず身体が弓なりに跳ね、刺激を強請るように突き出す形になってしまふ。熱く湿った口内に囚われた突起は、舌先に追い回され、突付かれ、弾かれる。唇を離しては先端に口付け、また吸い付く。一方をなぶった後には残る一方をと、時間を掛け、からかうように繰り返される愛撫に、弱く握った拳で彼の肩を叩き抗議するが、勿論聞き入れては貰えない。唇と舌とで与えられる胸元への刺激を止めることなく、彼の余す片手が下腹部に触れた。ゆっくりと滑らされる指先が下着の中へ差し入れられると、思わず脚を閉じ、その進入を阻んだ。

ちら、と彼の視線がこちらへ向けられる。しばし目を合わせた後に口元を歪めると、くすりと笑い声が零された。つまり、彼へと向けた私の表情に、否定の意思はないと取られたようだ。

一度留められた手は、些か乱暴に脚を押し広げ、身体の中心を探り当てる。谷間を伝う指は箇所の既に濡れていることを確かめ、私にもそれを知らしめようとしていた。たつぷりと零れる程に濡れた秘裂を浅く掻き混ぜられ、耳に届くように水音を立てられる。

「……ナミさん、なんでこんなに濡れてんの？」

「……あんたがいつばい、触る……からっ」

ともすれば掠れる声を誤魔化そうとしながらに答えを返す。徐々に徐々に押し沈められる指に期待した身体は、自然とそれを締め付けていた。

物欲しげにひくつく身体を取えてなぶっているのか、指は緩々と出し入れを繰り返すだけで、強い刺激を与えてはくれなかった。足を擦り合わせ堪える私の耳元で、欲しい？と彼が囁いた。分かっている癖にと精一杯睨み付け、バカ、と言だけ答えると、肯定と解釈した様子でにんまりと笑みを浮かべ、やがてズボンの前を開く金属音が室内に響いた。

大きく開かされた足の間に、彼が身体を押し込んできた。既に硬く屹立した熱が押し当てられ、位置を確かめるように前後に何度もそこを擦り上げる。

待ち望んでいた筈なのに、待つて、と口走りそうになった。

口を開きかけた私を見ても彼の動作は止まらず、やがて探り当てた先へと熱い塊が突き立てられた。

「……あッ、や……ッ……あ！」

充分に解され、たつぷりと濡れた箇所への侵入を阻む術はなく、びくりと跳ねては締め付けるといふ身体の示す反応も、享楽の助けにしかならなかった。一息に貫かれ、狂おしい甘い痺れが身体中を駆け巡る。これから与えられるであろう、より深い快楽の予感に身体が震え、しかしそれは不安にも似た感情で、打ち込まれた熱を逃がさぬようと、彼の肩に縋り付いた。

動くよ、と告げた後に、埋められていただけのそれは抽送を始めた。初めはゆつくりと、くすぐったささえ感じる程だったが、やがてより良い姿勢を見つけたのか、ベッドの軋む程に強く身体を揺すられる。

絶え間なく漏れる声を必死に堪え、相手の動きに合わせて、繋がりがより深くなるようにと位置を合わせて腰を揺らす。しかしそれは唐突に捻じ伏せられることで止めさせられてしまった。

「……なんで……？」

向ける問い掛けは、くすぐすと零される笑い声と、「動く

の禁止」という一言で遮られてしまった。

——今日は特別、意地悪な日だわ。

自ら動くことすら許されず、自由を奪われたまま苛まれながらにそう思った。彼は時々、こんな風に意地悪になることがある。優しさが損なわれる訳ではないが、強引で執拗で、辱めるような言葉ばかりを投げ掛けるのだ。

動くなといわれてしまうと、その行為は特別淫らなものに思えてしまい、意識することで身体は強張り、刺激に過剰に反応してしまう。なす術もなく相手に任せていると、中心を貫く熱い塊は、内壁を隈なく擦り上げ、より感じる箇所を探っていく。じわじわと広がる熱に抗いながら、幾度か手の甲を顔に当てて顔を隠そうとしたが、その都度手を押さええられたり、鼻先を摺り寄せ、軽く口付けることで遮られてしまう。ふと、彼の手が私の脚を撫で上げた。特別に敏感な箇所でもないというのに、ぞくぞくと湧き上がった感覚が身体全体に広がった。

「ひあ……ッ……！」

息を飲むと同時に、高い声が洩れてしまう。不意に反応を大きくする私に、不思議そうに、面白がるように目を細めた彼の視線が向けられた。微笑む口許からフ、と零れる吐息が、

どうしたの、と問い掛けている。

弱々しく首を振り、気取られぬようにとわざと声を荒げ、繋がる箇所を意識を向ける。気付いているのかいないのか、その後も合間合間に彼の手は腰へ、肩へ、首へ、頬へと伸ばされ、優しくそこを撫でやった。

快楽を求め合うだけならば必要としない愛撫に、胸の奥がざわめいた。肌を伝う熱に、真意を図りかねる指先に焦れる。本当に愛されているのかもしれないと、微かな期待が首をもたげる。

好きだとか愛しているだとか、言葉を交わして付き合っている訳ではない。彼が求めるその手を私が拒まなかったという、ただそれだけの理由で成立している関係だ。これは愉しみ為にのみ行われるものであって、互いの心を縛り合うものではない。

それは逃げ場を残し、曖昧な距離を取ったが為の苛立ちだった。言葉で確認し合うのは簡単だ。けれど通じ合えなかった場合には、彼と触れ合う機会すらも失うことになる。

——いつものように、軽口を叩いてくれれば良いのに。

見え透いた美辞麗句と共に求められれば、この時間を割り切って過ごせそうに思えた。だけど彼の口数は少なくなるば

かりで、哀しげにも見える瞳の色が覗き見える度に、やり場のない振れた想いが私の胸を掻き乱した。

わだかまりと快感とがない交ぜになって、限界まで追い詰められた身体はバターのようにとろとろに溶かされて、心の檻も何もかもが取り払われた後には、ただ狂おしい願望だけが残っていた。腕を伸ばし彼の腕に、肩に、首筋にと触れる。髪に指を絡ませ、軽く引きやり促すと、彼は身体を落とし、腕の中へと囚われてくれる。

自分だけは余裕があるかのようにことを進めているが、その唇から吐かれる息は荒く、繋がるまま動きを止めた内部で熱い塊は堪えきれぬ様子でひくりと跳ね上がる。触れ合う肌の奥から伝わる鼓動、喉を鳴らし唾を飲み下す振動までもが、愛おしい。

「……き」

一つ大きく息を吐く後に、掠れる喉から声を絞り出す。伝わって欲しい。ただどうか、信じないで。

「サンジ君——…好き」

——あなたのことが、好きで好きでたまらない。

彼の息を飲む音が直に身体に伝わってきた。囁きへの返答を恐れ、早く、と促すように、絡ませた両の足で彼の腰を引

き寄せる。

——ねえ、これは散々にさいなまれて、どうにかなりそうな程に高められた結果なの。身体を求め合う行為の過程の一つに過ぎないの。

心の中で言い訳を繰り返し、言葉の効力を失わせるかのようには手を求めた。彼はただ私の名前を一度囁くと、両足を肩に担ぎ、身体を半ば抱え上げるようにして、より奥深くまで自身を押し込めた。

「……あ、あア……ッ！」

声を堪えることも忘れ、悲鳴に近い喘ぎを発してしまふ。散々に慣らされた身体にその刺激は大きく、浅い所から最奥までを抉られると、絶頂を迎えるまでの時間はあつという間だった。

絡め握り合つた指に爪の食い込む程に力を締め、波の訪れを相手に伝える。これまで幾度も昇り詰めようとする度に中断されていた行為は今度は留められることはなく、やがて身体の内奥で爆ぜた快感が身体をびくびくと震わせた。貪欲に求める箇所は彼自身を絞り尽くすように締め上げ、一呼吸置いた後に彼のそれもまた最奥で果て、熱い欲をどくどくと吐き出した。

快楽の余波が身体中へと広がる中、ゆっくりと崩れる彼の身体を抱き締めた。半ば預けられた重みが嬉しくて、両腕を回し縋り付き、隙間のなくなるようにと肌を合わせる。

片手で自重を支えた彼の、残る片手が髪に触れた。ゆっくりと頭を撫でるその指先が快くて、彼には見えない位置でまなじりを涙で滲ませた。

熱が冷めると共に全て忘れてしまふから、だから今だけは、あなたに愛されていると信じていたい。感じていたい。

今この時だけは、あなたの指先からただそれ——。





\* しゃべりな服キョウダヨ。

**P95 アンソロゲスト参加漫画**  
2011.12.29



ね...

ここじゃ  
ダメだって  
ば...



こんな  
時間も  
誰も  
来ねえよ



私が眠れなくて来たところなんだけど!?

あんたも偶々起きて来たんじゃない!

お茶  
飲み!

あー...  
運命?  
へらっ



いいから  
声下げて

.....  
んっ







ゴッ

あっ…!!!



ごめん…

今日はい慢

無理  
そう



…っ

ダメって…  
…ったのに…  
…!!



気付いているの?

あ…  
…ん…っ!!

カッ

ドクッ!!

ラベンダーの  
ハーブティー



この香りの  
中では  
いつもより

強引に  
求めて  
くるって



誰かを  
思い出して  
いる？

今  
の心は  
ある



誰の姿  
？





…もっと  
いっぱい

して  
……?



ナミさん  
—?—

もっと



……  
いいよ

でも加減  
出来なそう  
だから

覚悟して

心に在る姿が誰でも



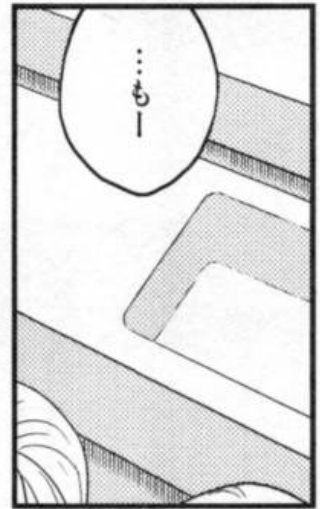
あ……っ  
!!!

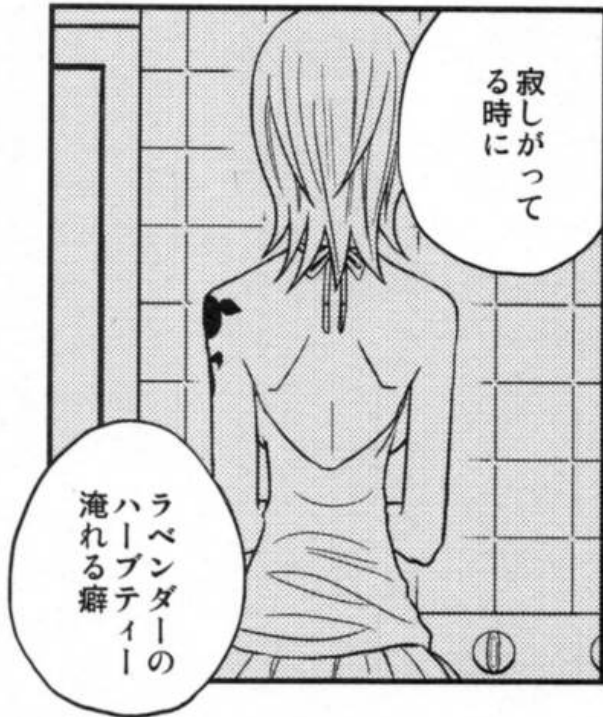
あ……っ  
!!!



今は私で

あなたを満たして——





寂しがつて  
る時に

ラベンダーの  
ハーブティー  
淹れる癖



……  
気付いて  
んのかなア……



いつもより  
ガード緩い  
気がするし

気が気じゃ  
ねえんだけど

……なア  
ナミさん



あなたに  
求められたい

君を  
求める

……  
うん……

サイン



気付いて  
欲しい

寝てる  
時でも

いつでも  
良いから

サァ……

眠れなくて  
お茶飲みたく  
なったら

おれを  
呼びな？





**P103 ヤングアンドプリティラバー**  
2013.8.10



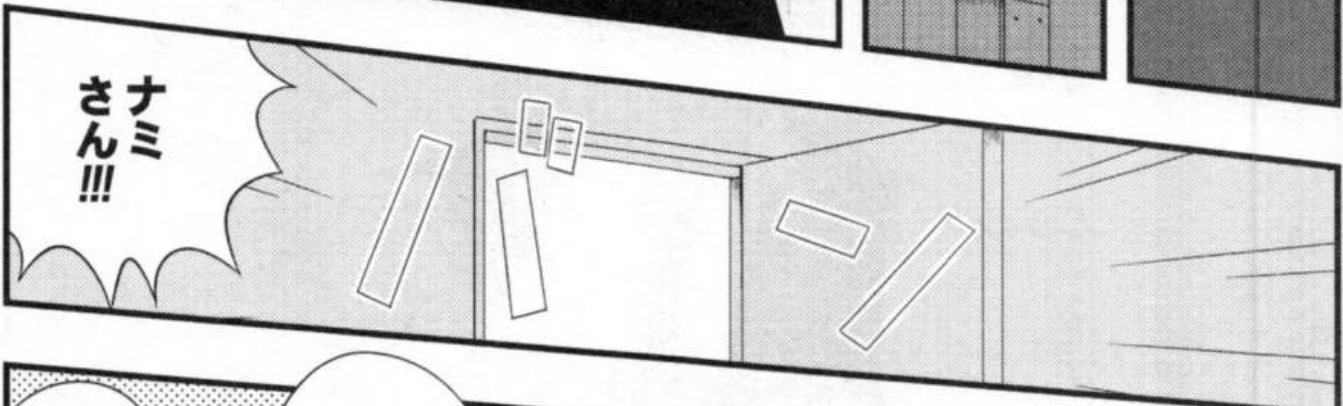
確かにこの建物に  
連れ込まれたって…

クソ…ッ



……ミさん  
ナミさん!!

どこだ…!?



ナミ  
さん!!!



良かった  
無事だったん  
だねナミ…

さん?



……ジ  
くん…?



なに  
これー!?



しかし



見事に小さくなっちゃったな！

はー...



まあ大丈夫だ

飲まされた薬の効果が一晩も経てば消えるそうだし

ロビンちゃんも調べてくれるって

吐いた

カクカク



見ないよ



ん？

で

なんか楽しそうね



ちゃんとして  
心配して  
るって

人が大変な思い  
してるのに  
気楽なものね!!

…ごめん  
でも



あんたは  
いつまで  
ここに  
居る気?

せっかくだから  
もう少し見て  
いてえなって



…あのね  
体に変化が  
あるだけで

中身は  
変わりの  
ないの!

?

変な妄想の  
ネタにするの  
止め…

…あれ?  
ナミさん  
熱でもある?



嬉しくて

おれの  
知らない頃の  
ナミさんに  
出会えた  
みたいで

ひびく



薬のせいかな... 具合は悪くねエ?

ちよ... どうも しない!!



平気だから 触らな...



やっぱり 顔熱い



なにこれ 体が...



平気なら 良かった

そっか

おどおど

具合悪い時は  
言いな?

嫌じゃ  
なければ  
側についてる  
から

…気に  
入らない

む!

?

キーン!!

私を見る目に  
いやらしさが  
ないのが  
気に入らない!!

かきん

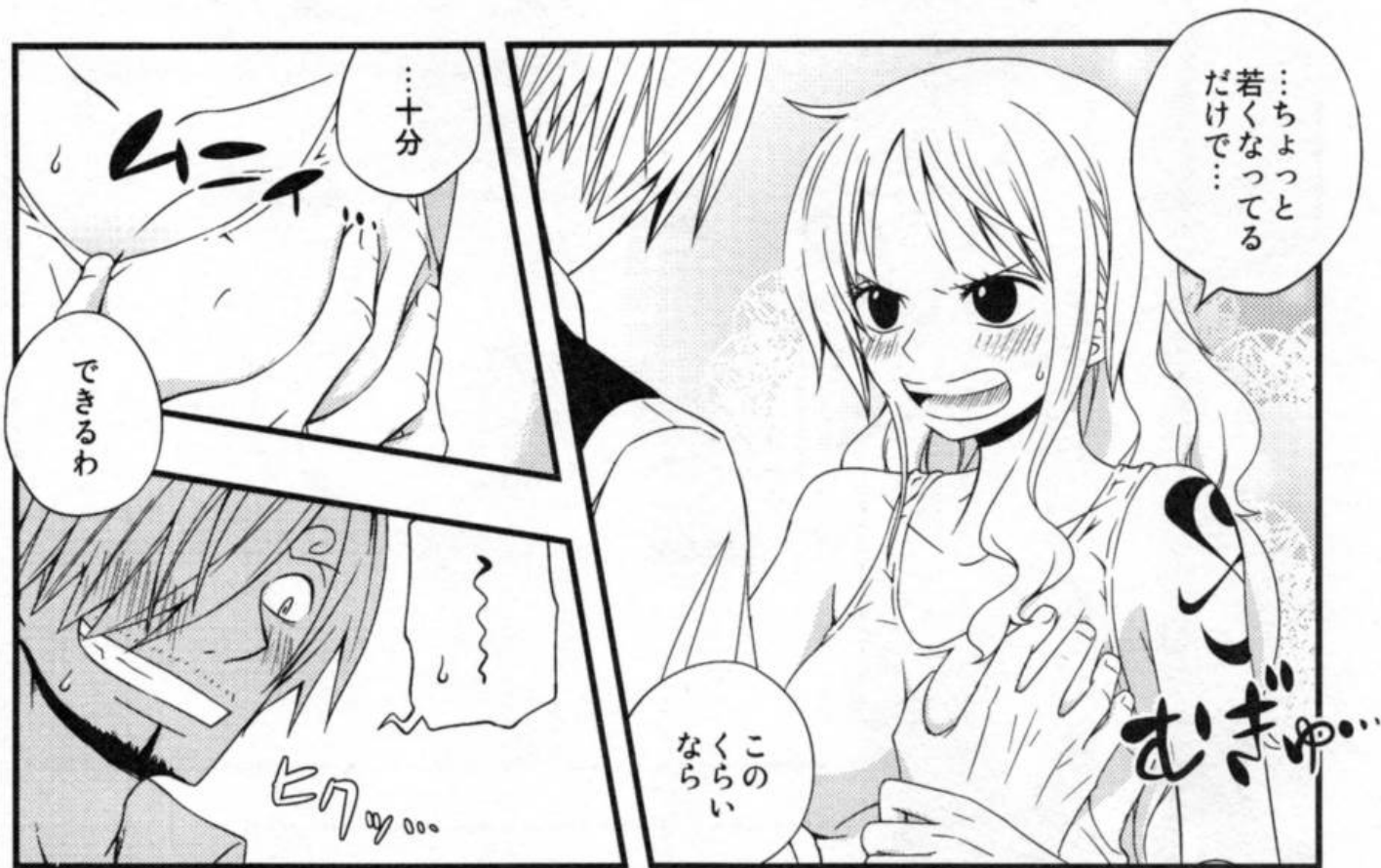
えええ  
えええ  
ええ!?

全体的に

だいて

今の  
状態じゃ  
仕方が…

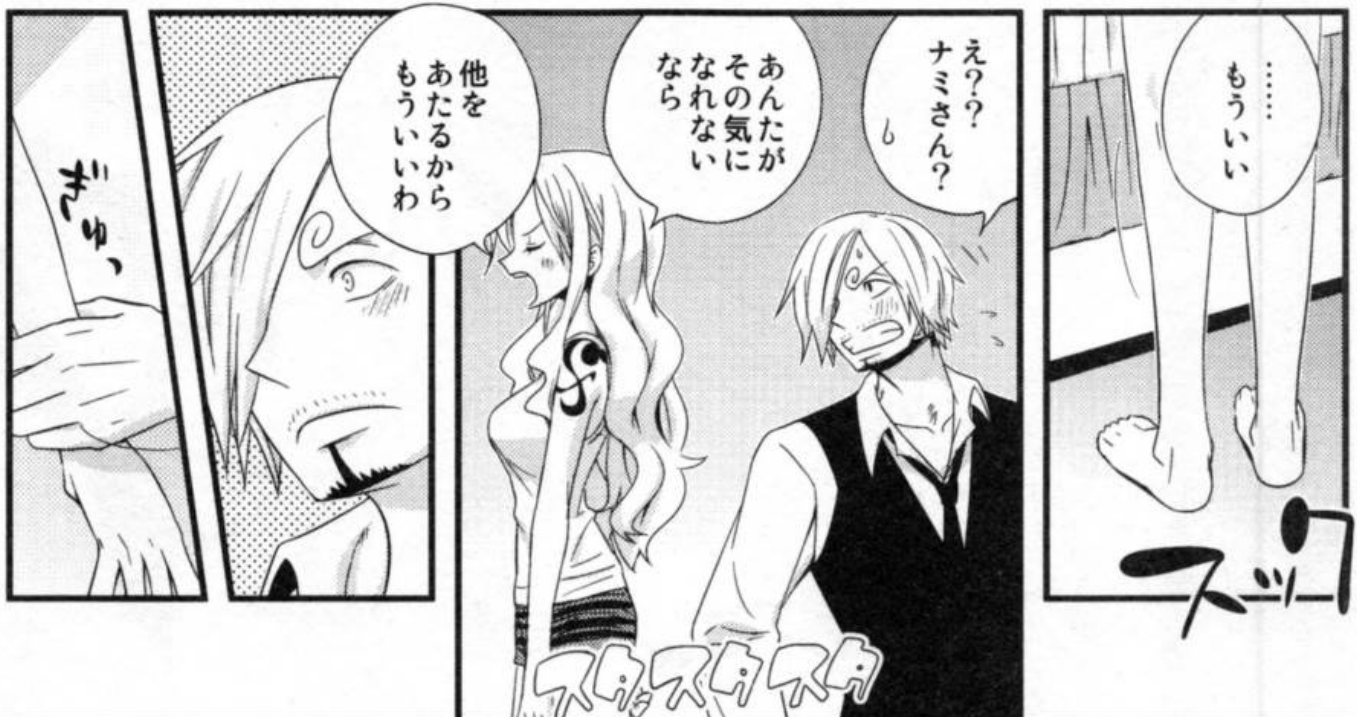
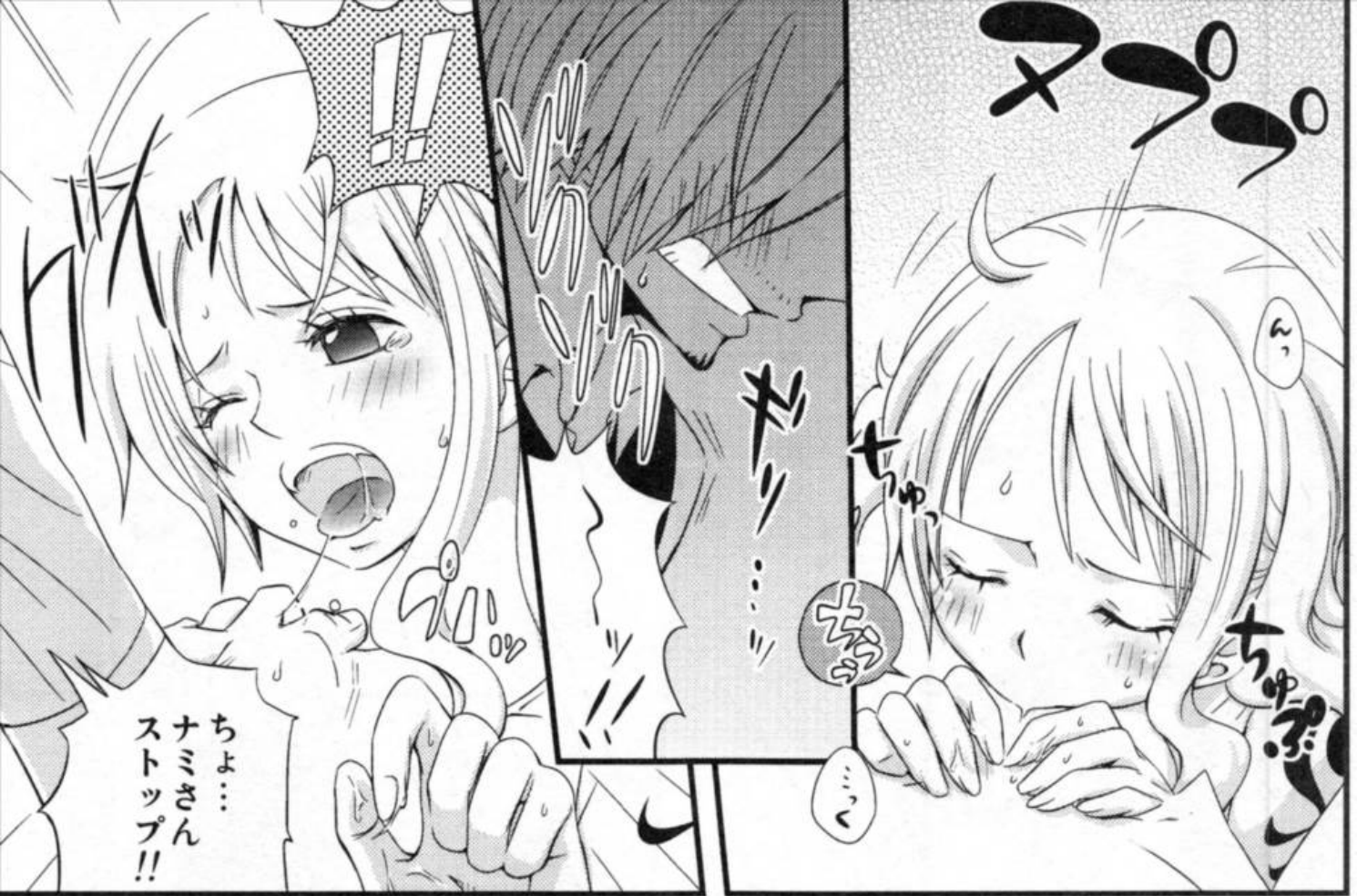






















おれの  
気を引こうと  
した？

さう...  
!!

あ...  
あ...  
ん...

ぷ...  
ぷ...

ちゅ...  
ちゅ...

ちゅ...  
ちゅ...



...ごめん  
あんまり  
かわいいから

さくさ

っい

ズルル



...ナミさん  
いい？

早...  
くから

脱...  
いで



は...  
あ

は...  
ー

グイ...

びく...

あ...











もっと 見せて

ナミさんが 気持ちよく なってるってこ





ん...

い...もち

ゾクゾク



ん...

ん...

ふ...

平気?...  
平気?

きゅん

ん...

アキ...



優しく  
できない

言っ  
た



だ...から

はー



触れる指も  
唇も

ちゅ

はま

何もかもが  
優しすぎて

ちゅ

ちゅ



ナミさん  
また滅茶苦茶  
言ってる  
よ

あんと  
するの…  
嫌だった  
のよ…!!

頭も体も全て



はあ

も…ダメ…  
こんなの…

……  
きつぷ?

は…

溶かされてしまう



……

……  
こんな風に  
抱かれ…  
たら



あなた  
しか…

愛せなく  
なる—

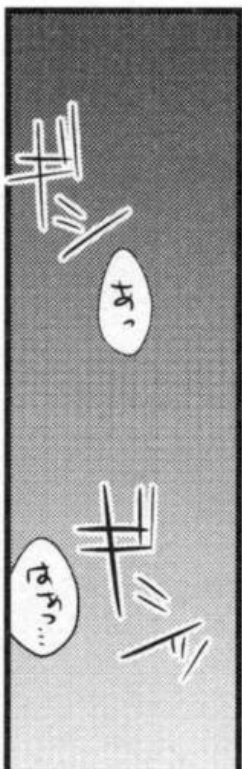


…それ

おれには  
都合  
だけど

…  
気安く  
言うけど

裏切ったら  
殺すわよ



あ、

…



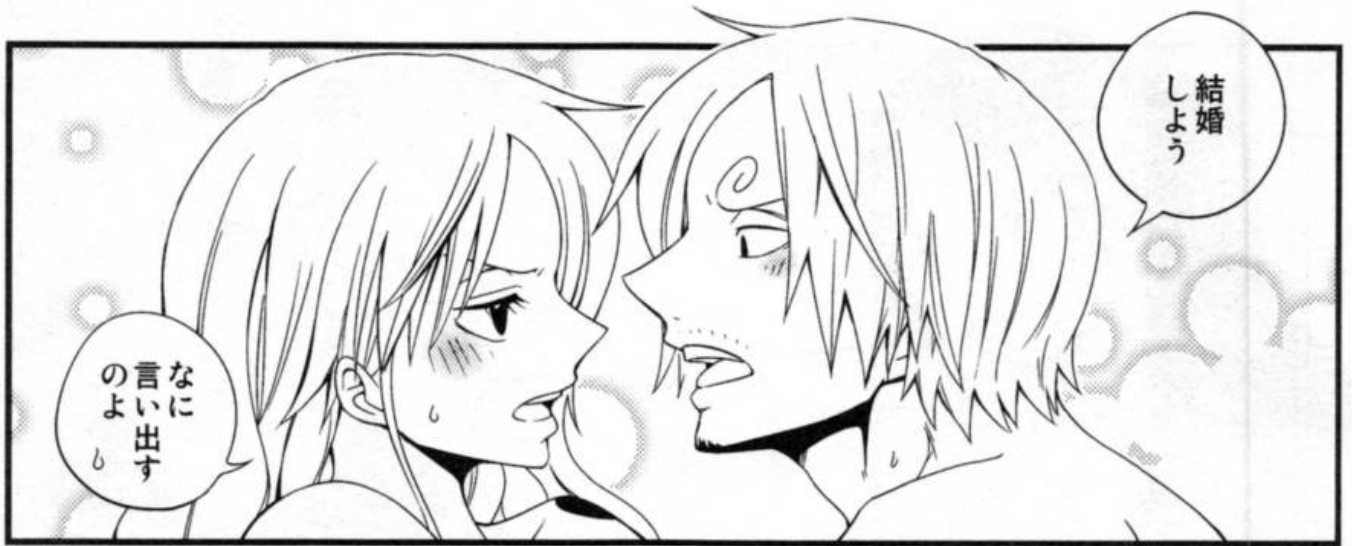
…ん、  
ひま、

いいよ

…愛し  
てるから

あ、





結婚  
しよう

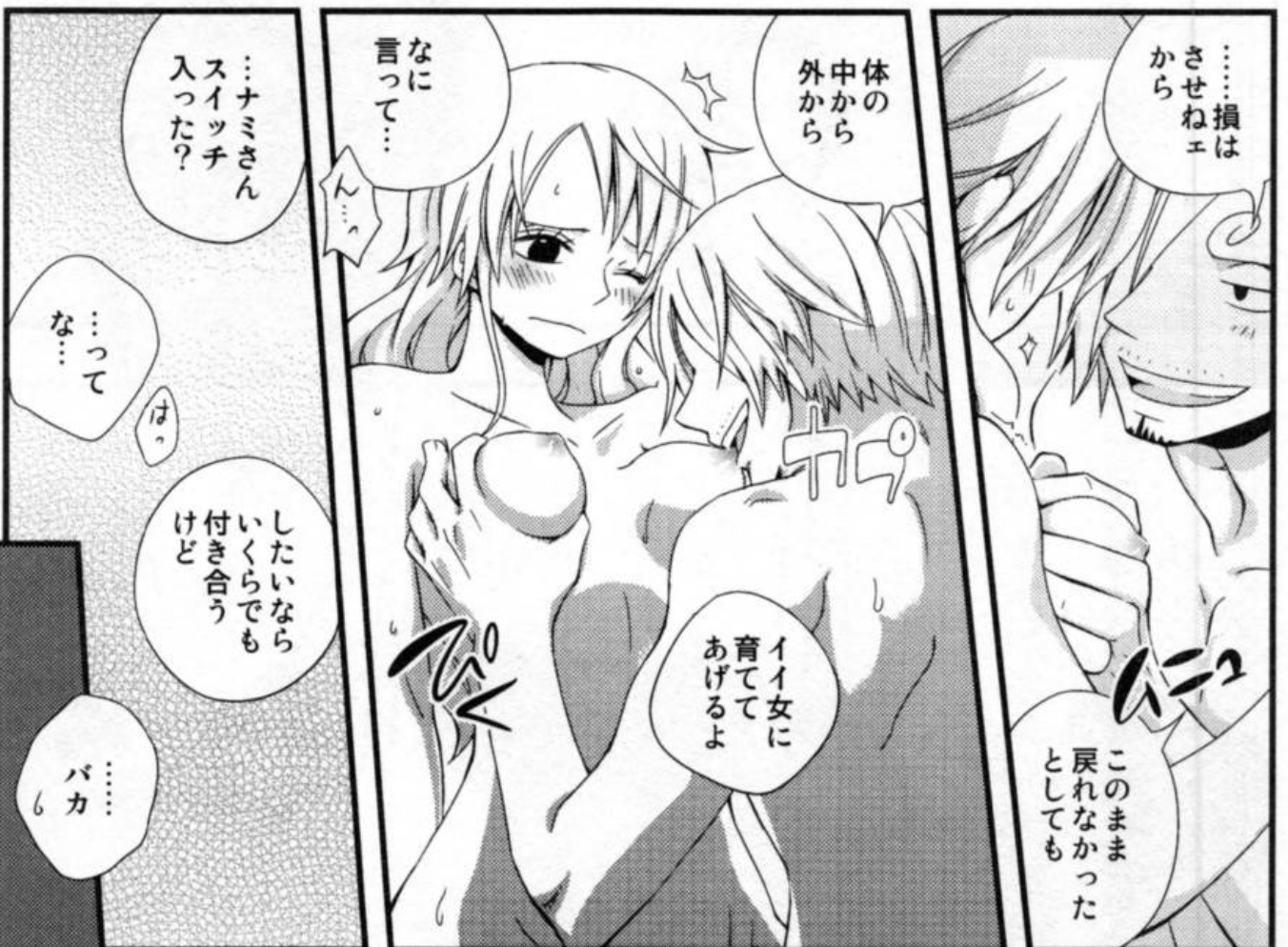
なに  
言い出す  
のよ



こんなこと  
しちまった  
以上

責任  
取らせてよ  
ナミさん

取れなんて  
要求してない  
でしょ!?



……損は  
させねえ  
から

体の  
中から  
外から

なに  
言って……

……ナミさん  
スイッチ  
入った?

……って  
な……

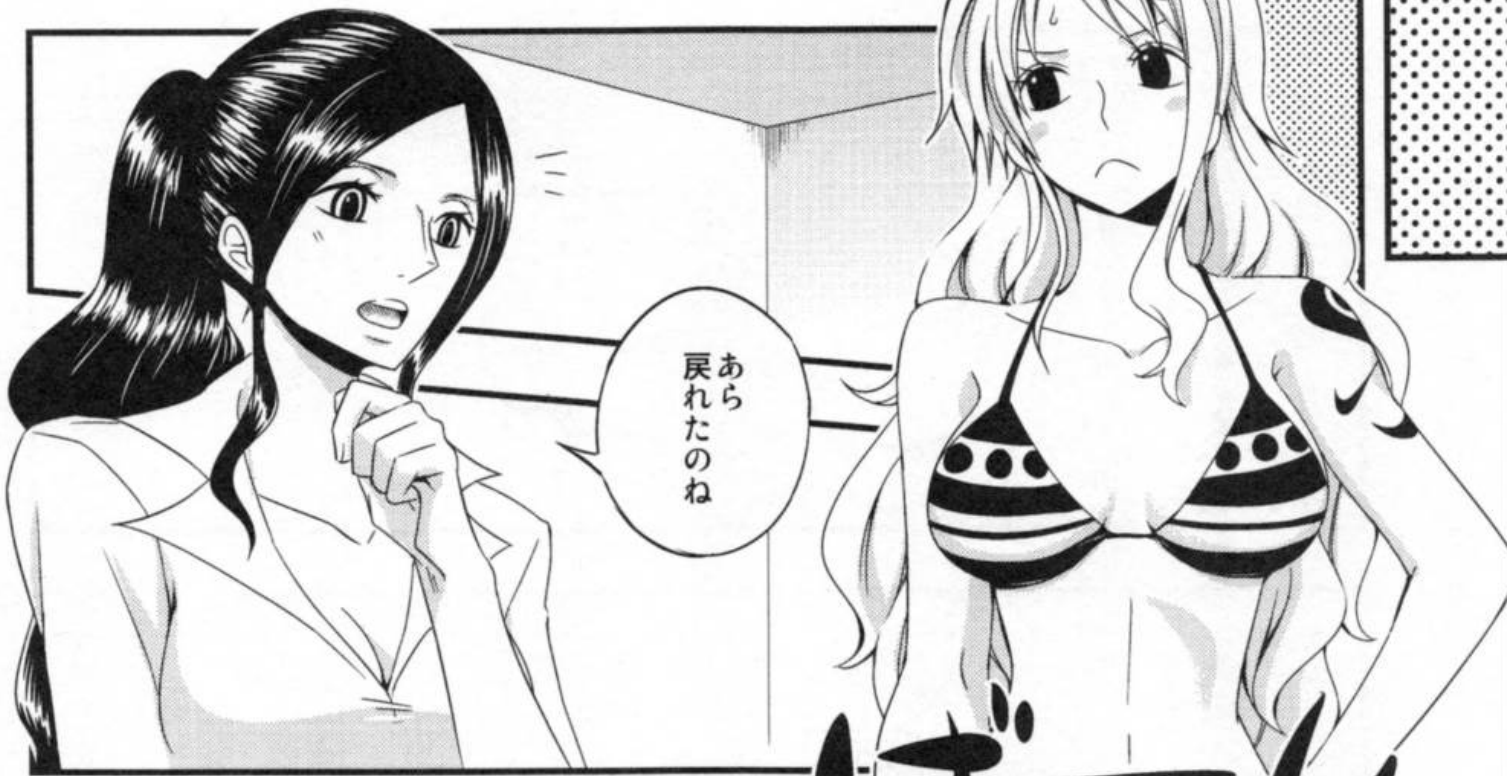
したいなら  
いくらでも  
付き合う  
けど

いい女に  
育てて  
あげるよ

このまま  
戻れなかった  
としても

……  
バカ……





あら  
戻れたのね

ぱーん



昨夜の内に  
遊んでおけば  
よかったわ

ちいさいうちに

ロマン!!

フリフリとか

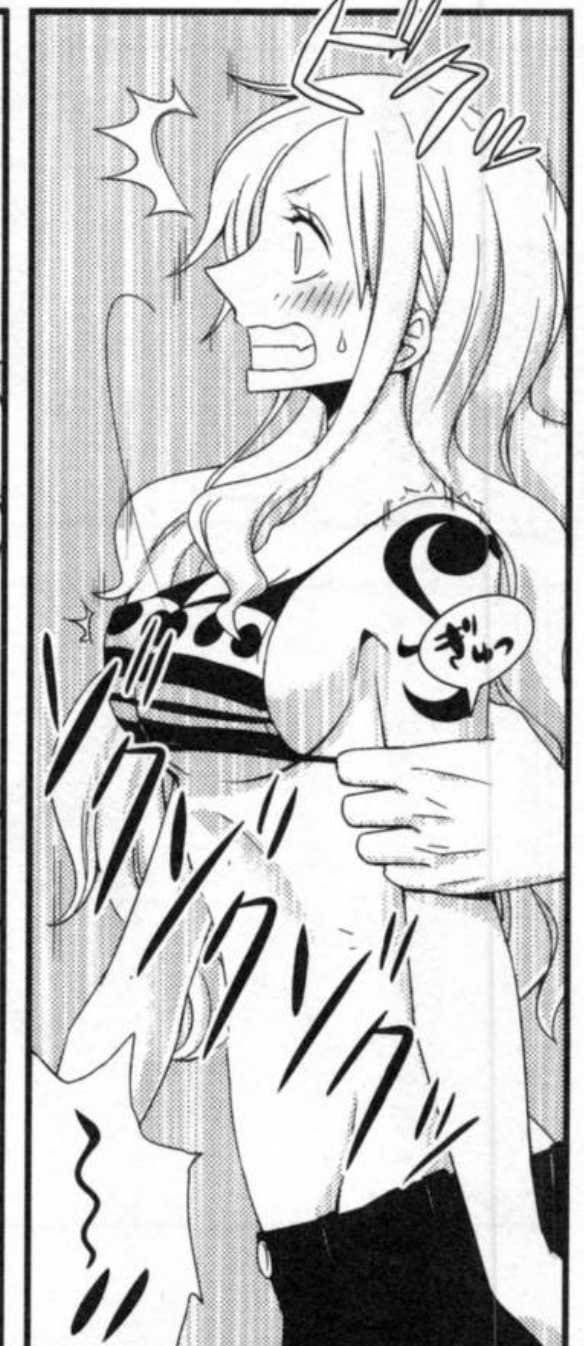


薬について  
調べておいた  
けど不要  
だったわね

ごめんね  
ありがと

.....

200 000





……  
えーっと  
つまり当分

ナミさん  
おれに  
抵抗できな  
いってこと？



お♡

びりッ  
ぞわわっ

あなたね  
人の弱味に  
付け入る

そういう  
ことなら

ログが  
たまるまで  
ごゆっくり

付け入る  
なんて  
人聞き  
悪いな

最初に  
誘ったのは  
ナミさん  
なのに

……!!  
効果  
が  
切れたら  
酷いわよ

その時は

まずは  
今を楽しま  
せてくれよ

まず

Orange Typhoon

BOOTH (同人誌通販)

<https://enako.booth.pm>



本の感想送信フォーム

ご感想を頂ける場合はこちらまで

<http://enako.jp/c/book/>



## SweetNess3

サンジ×ナミ再録集

One Piece Fanbook #24

2016年12月30日発行

Orange Typhoon

(オレンジタイフーン)

<http://enako.jp/>

山田エナ子

[yamada@enako.jp](mailto:yamada@enako.jp)

印刷 K9

